

【 大学院聴講生 】

※2022年3月7日現在

担当専修	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日	時間	曜日	時間	担当教員名	使用言語	聴講可否 大学院聴講生	シラバス連番	備考
心理学	7131005	心理学(特殊講義)	2	後期	水	4			上田 竜平	日本語	○	行動文化学1	
心理学	M341001	心理学(特殊講義)	2	後期	水	3			森口 佑介	日本語	○	行動文化学2	
心理学	M341002	心理学(特殊講義)	2	前期	水	3			蘆田 宏	日本語	○	行動文化学3	
心理学	M341003	心理学(特殊講義)	2	後期	火	4			齋木 潤	日本語	○	行動文化学4	
心理学	M341004	心理学(特殊講義)	2	前期	月	2			熊田 孝恒,西田 眞也, 中島 亮一,水原 啓暁, 佐藤 弥	日本語	○	行動文化学5	
心理学	M341006	心理学(特殊講義)	2	前期	水	2			黒島 妃香	日本語	○	行動文化学6	
心理学	7131001	心理学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			伊村 知子	日本語	○	行動文化学7	
言語学	7231001	言語学(特殊講義)	2	前期	月	4			千田 俊太郎	日本語	○	行動文化学8	
言語学	7231003	言語学(特殊講義)	2	前期	水	3			CATT, Adam Alvah	日本語	○	行動文化学9	
言語学	7231004	言語学(特殊講義)	2	前期	金	3			定延 利之	日本語	○	行動文化学10	
言語学	7231006	言語学(特殊講義)	2	前期	水	4			谷口 一美	日本語	○	(不開講)	
言語学	7231007	言語学(特殊講義)	2	後期	水	5			谷口 一美	日本語	○	行動文化学12	
言語学	7231008	言語学(特殊講義)	2	後期	金	3			定延 利之	日本語	○	行動文化学13	
言語学	7231009	言語学(特殊講義)	2	前期	水	3			山本 武史	日本語	○	行動文化学14	
言語学	7231010	言語学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			宮本 陽一	日本語	○	行動文化学15	
言語学	7231011	言語学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			倉部 慶太	日本語	○	行動文化学16	
言語学	7231016	言語学(特殊講義)	2	後期	月	4			千田 俊太郎	日本語	○	行動文化学17	
言語学	7231017	言語学(特殊講義)	2	後期	水	3			CATT, Adam Alvah	日本語	○	行動文化学18	
言語学	7241001	言語学(演習)	2	後期	木	2			笹間 史子	日本語	○	行動文化学19	
言語学	7241002	言語学(演習)	2	前期	木	2			バリハワダナ ルチラ	日本語	○	行動文化学20	
言語学	7241003	言語学(演習)	2	前期	月	5			千田 俊太郎,CATT, Adam Alvah,定延 利 之,大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学21	
言語学	7241004	言語学(演習)	2	後期	月	5			千田 俊太郎,CATT, Adam Alvah,定延 利 之,大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学22	
言語学	9624001	言語学(語学)	2	前期	火	3			井戸根 綾子	日本語	○	行動文化学23	
言語学	9625001	言語学(語学)	2	後期	火	3			井戸根 綾子	日本語	○	行動文化学24	
言語学	7241011	言語学(演習)	2	前期	金	3			堀口 大樹	日本語	○	行動文化学25	
言語学	7241012	言語学(演習)	2	後期	火	4			堀口 大樹	日本語	○	行動文化学26	
言語学	M352001	言語学(演習)	4	通年	金	4	金	5	千田 俊太郎,CATT, Adam Alvah,定延 利 之,大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学27	
言語学	7231002	言語学(特殊講義)	2	後期	火	5			浅尾 仁彦	日本語	○	行動文化学28	
言語学	7231012	言語学(特殊講義)	2	前期	月	4			守田 貴弘	日本語	○	行動文化学29	
言語学	7241013	言語学(演習)	2	前期	火	4			堀口 大樹	日本語	○	行動文化学30	
言語学	M351001	言語学(特殊講義)	2	後期	火	3			横森 大輔	日本語	○	行動文化学31	
言語学	7231013	言語学(特殊講義)	2	前期	月	2			Tao Pan	英語	○	行動文化学32	
言語学	7231014	言語学(特殊講義)	2	後期	月	2			Tao Pan	英語	○	行動文化学33	
言語学	7231015	言語学(特殊講義)	2	後期	水	4			安岡 孝一	日本語	○	行動文化学34	
言語学	7231020	言語学(特殊講義)	2	前期	金	1			野原 揮輝	日本語	○	行動文化学35	
社会学	7331001	社会学(特殊講義)	2	前期	金	4			松谷 実のり	日本語	○	行動文化学36	
社会学	7331003	社会学(特殊講義)	2	前期	火	2			Stephane Heim	日本語	○	行動文化学37	
社会学	7331005	社会学(特殊講義)	2	前期	水	5			岸 政彦	日本語	○	行動文化学38	
社会学	7331008	社会学(特殊講義)	2	前期	木	3			溝口 佑爾	日本語	○	行動文化学39	
社会学	7331009	社会学(特殊講義)	2	後期	水	2			東 園子	日本語	○	行動文化学40	
社会学	7331025	社会学(特殊講義)	2	後期	月	4			落合 恵美子	日本語	○	行動文化学41	
社会学	7331033	社会学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			竹沢 泰子	日本語	○	行動文化学42	
社会学	7331026	社会学(特殊講義)	2	前期	金	2			安里 和晃	英語	○	行動文化学43	
社会学	M361002	社会学(特殊講義)	2	通年集中	他	他			安里 和晃,Stephane Heim,落合 恵美子	日本語	○	行動文化学44	
社会学	M361003	社会学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			打越 正行	日本語	○	行動文化学45	
社会学	M361004	社会学(特殊講義)	2	通年	水	4			太郎丸 博	日本語	○	行動文化学46	
社会学	M362002	社会学(演習)	4	通年	金	5			落合 恵美子	日本語	○	行動文化学47	
社会学	M362003	社会学(演習)	4	通年	金	4			太郎丸 博	日本語	○	行動文化学48	
社会学	M362005	社会学(演習)	4	通年	火	5			田中 紀行	日本語	○	行動文化学49	
社会学	7331002	社会学(特殊講義)	2	前期	火	3			落合 恵美子	日本語	○	行動文化学50	
社会学	M362001	社会学(演習)	4	通年	月	5			Stephane Heim	日本語	○	行動文化学51	
社会学	M363001	社会学(演習)	2	後期	水	5			岸 政彦	日本語	○	行動文化学52	
地理学	7431001	地理学(特殊講義)	2	前期	水	2			水野 一晴	日本語	○	行動文化学53	
地理学	7431002	地理学(特殊講義)	2	後期	水	2			水野 一晴	日本語	○	行動文化学54	
地理学	7431003	地理学(特殊講義)	2	前期	火	2			米家 泰作	日本語	○	行動文化学55	
地理学	7431004	地理学(特殊講義)	2	後期	火	2			米家 泰作	日本語	○	行動文化学56	
地理学	7431008	地理学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			松四 雄騎	日本語	○	行動文化学57	
地理学	7431009	地理学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			財城 真寿美	日本語	○	行動文化学58	
地理学	7431010	地理学(特殊講義)	2	前期	木	5			河本 大地	日本語	○	行動文化学59	
地理学	7431011	地理学(特殊講義)	2	後期	木	5			河本 大地	日本語	○	行動文化学60	
地理学	7431012	地理学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			鈴木 晃志郎	日本語	○	行動文化学61	
地理学	7431013	地理学(特殊講義)	2	前期	木	3	木	4	村田 陽平	日本語	○	行動文化学62	
地理学	7431014	地理学(特殊講義)	2	後期	木	3	木	4	村田 陽平	日本語	○	行動文化学63	
地理学	7431017	地理学(特殊講義)	2	前期	金	4			杉江 あい	日本語	○	行動文化学64	
地理学	7431018	地理学(特殊講義)	2	後期	金	4			杉江 あい	日本語	○	行動文化学65	
心理学	7102001	系共通科目(心理学)(講義I)	4	通年	月	3			蘆田 宏,阿部 修士,熊 田 孝恒,森口 佑介,黒 島 妃香,Duncan Wilson	日本語	○	行動文化学66	学部科目
心理学	7106001	系共通科目(心理学)(講義IIb)	2	前期	月	2			黒島 妃香	日本語	○	行動文化学67	学部科目
心理学	7109001	系共通科目(心理学)(講義IIe)	2	後期	火	2			蘆田 宏	日本語	○	行動文化学68	学部科目
心理学	7113001	系共通科目(心理学)(発達心理学)(講義II d)	2	前期	火	2			森口 佑介	日本語	○	行動文化学69	学部科目
心理学	7134001	心理学(神経・生理心理学)(特殊講義A)	2	前期	月	1			月浦 崇	日本語	○	行動文化学70	学部科目
心理学	7135001	心理学(神経・生理心理学)(特殊講義B)	2	後期	月	1			月浦 崇	日本語	○	行動文化学71	学部科目
心理学	7136001	心理学(知覚・認知心理学)(特殊講義A)	2	前期	金	2			齋木 潤	日本語	○	行動文化学72	学部科目
心理学	7137001	心理学(知覚・認知心理学)(特殊講義B)	2	後期	金	2			齋木 潤	日本語	○	行動文化学73	学部科目
心理学	7138001	心理学(神経・生理心理学)(特殊講義)	2	後期	水	4			上田 竜平	日本語	○	行動文化学74	学部科目
心理学	7117001	系共通科目(心理学)(学習・言語心理学)(講義Ke)	2	後期	月	4			楠見 孝	日本語	○	行動文化学75	学部科目
心理学	7115001	系共通科目(心理学)(知覚・認知心理学)(講義Kc)	2	前期	水	5			野村 理朗	日本語	○	行動文化学76	学部科目
心理学	7132001	心理学(感情・人格心理学)(特殊講義)	2	前期	火	2			梅村 高太郎	日本語	○	行動文化学77	学部科目

担当専修	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日	時間1	曜日2	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否	シラバス連番	備考
											大学院聴講生		
心理学	7133001	心理学(精神疾患とその治療)(特殊講義)	2	後期	火	2			清野 百合	日本語	○	行動文化学78	学部科目
言語学	7202001	系共通科目(言語学)(講義I)	2	前期	水	4			千田 俊太郎,CATT, Adam Alvah,定延 利之,大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学79	学部科目
言語学	7204001	系共通科目(言語学)(講義I)	2	後期	水	4			千田 俊太郎,CATT, Adam Alvah,定延 利之,大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学80	学部科目
言語学	7206001	系共通科目(言語学)(講義II)	2	前期	月	3			千田 俊太郎,CATT, Adam Alvah,定延 利之,大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学81	学部科目
言語学	7208001	系共通科目(言語学)(講義II)	2	後期	月	3			千田 俊太郎,CATT, Adam Alvah,定延 利之,大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学82	学部科目
言語学	7246001	言語学(基礎演習)	2	前期	水	2			千田 俊太郎,CATT, Adam Alvah,定延 利之,大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学83	学部科目
言語学	7246002	言語学(基礎演習)	2	後期	水	2			千田 俊太郎,CATT, Adam Alvah,定延 利之,大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学84	学部科目
言語学	9648001	言語学(語学)	2	前期	金	1			杉山 豊	日本語	○	行動文化学85	学部科目
言語学	9649001	言語学(語学)	2	後期	金	1			杉山 豊	日本語	○	行動文化学86	学部科目
言語学	9650001	言語学(語学)	2	前期	金	1			中村 麻結	日本語	○	行動文化学87	学部科目
言語学	9651001	言語学(語学)	2	後期	金	1			中村 麻結	日本語	○	行動文化学88	学部科目
社会学	7302001	系共通科目(社会学)(講義)	2	前期	水	2			田中 紀行	日本語	○	行動文化学89	学部科目
社会学	7304001	系共通科目(社会学)(講義)	2	後期	水	2			太郎丸 博	日本語	○	行動文化学90	学部科目
社会学	7361002	社会学(実習)	2	通年	水	4			太郎丸 博	日本語	○	行動文化学91	学部科目

行動文化学1

科目ナンバリング		G-LET28 67131 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		こころの未来研究センター- 助教 上田 竜平			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学(特殊講義)									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、心理過程と生理学的な活動との対応関係を探る研究分野における、主要な方法論 - 具体的には、神経心理学や脳機能イメージングといった認知神経科学的手法 - を解説する。研究手法についての理解を深めた後に、前頭葉機能・記憶・情動・共感・意思決定など、主に社会神経科学 (Social Neuroscience) における知見を中心に概説する。これまでに得られている基礎的な知見に加え、発展的・建設的な思考能力を身につけることで、受講者がそれぞれの研究に活かせるようにすることを目的とする。</p> <p>また本講義では、英語によるTED talksも活用する。第一線の研究者による英語のプレゼンテーションを視聴することで、研究を俯瞰的にとらえると共に、研究を行う上で必要なスキルを意識する機会を提供する。</p>											
【到達目標】											
<p>認知神経科学・社会神経科学の基礎を身につけ、自身の研究に活かせるようにする。 認知神経科学・社会神経科学の研究における発展的・建設的な思考能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
初回にオリエンテーションを行う。2週目以降は以下のような内容について授業を行う予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 認知神経科学の研究手法：神経心理学による研究 3. 認知神経科学の研究手法：fMRI 4. 認知神経科学の研究手法：その他の脳機能の測定手法 5. 前頭葉機能：下位領域の区分 6. 前頭葉機能：機能の評価とこれまでの知見 7. 記憶の神経機構 8. 情動の神経基盤 9. 報酬と意思決定 10. 選好判断と社会的関係の構築 11. 共感と利他行動 12. 道徳的判断 13. 文化神経科学 14. 発達社会神経科学 15. 講義全体のまとめ及びフィードバック 											
<p>なお各講義の終盤には、取り扱うトピックに関連する英語のTED talks (http://www.ted.com/talks) を教材として用いる。TED talksでは世界的に著名な研究者による優れた講演が行われており、最新の研究成果・現在のトレンド・英語によるプレゼンテーションの方法など、研究を行うために必要な</p>											
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

心理学(特殊講義)(2)

多くの知識とスキルを学ぶ貴重な機会を提供するものである。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

【評価方法】

平常点評価（50％）及びレポート（50％）。
4回以上欠席した場合には単位を認めない。

【教科書】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

初回のオリエンテーション時に、教材として使用するTED talk（<http://www.ted.com/talks>）についての紹介を行う。予習は必須ではないが、繰り返し視聴することによって、理解を深めること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学2

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森口 佑介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		発達認知神経科学論									
[授業の概要・目的]											
本授業では、認知発達とその生物学的基盤を、発達心理学、認知神経科学、生理心理学、計算論的モデルなどの知見を参照しながら理解することを目的とする。本年は注意や記憶、視覚イメージなどの認知機能とその脳内基盤について、講義と受講者の発表を織り交ぜながら検討する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知発達とその生物学的基盤を理解する ・ 様々な認知発達の関連性を理解する 											
[授業計画と内容]											
1 イントロダクション 2 ~ 4 認知発達理論の復習 5 ~ 14 認知発達とその脳内基盤についての最新知見 15 まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
【評価方法】 発表を割り当てるので、その発表(80点)および平常点(20点) 【評価基準】 到達目標について、文学部・文学研究科の成績評価基準に従って評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
【予習】 参考書程度の知識は授業前に身につけておく 【復習】 授業の課題論文について、復習する (わからない部分があれば、教員に積極的に質問に来てください)											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学3

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		視覚科学特論									
【授業の概要・目的】											
視覚に関する心理物理学・神経科学的研究について議論する。視覚科学の理論的基礎と方法論を習得するとともに、知見や方法をそれぞれの研究に活かせるようにすることを目的とする。前半は視覚科学の基礎に関する講義を行い、後半は参加者に最近の論文を読んで報告することを求める。											
【到達目標】											
視覚科学に関して、最新の研究について理解し、自らの研究を実践するための基礎となる高度な知識と批判的議論の能力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
前半では、下記のテーマについて、それぞれ1-2週ずつ講義を行う。 1 イントロダクション 2 視覚刺激と信号 3 受容野とたたみこみ 4 初期視覚処理のモデル 5 視覚実験刺激の基礎 6 MRIの基礎 7 fMRIと分析手法 後半、-14週は、参加者それぞれが最近の論文を読んで報告し、全員で議論を行う。参加者の数によって前半の講義の内容と週数を調整する場合がある。 15 フィードバック											
【履修要件】											
学部で実験心理学または周辺領域（神経科学など）の基礎を学んでいること 議論に参加できる日本語能力を持つこと											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価（発表と議論への参加）											
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

心理学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

前半は授業中に指示する。

後半は各自が論文を選んで内容を報告する。読むべき論文は前週までに報告し、他の参加者は予め概要を読んでおくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは固定しない。まずメール等で相談する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学4

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 齋木 潤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		視覚認識論									
【授業の概要・目的】											
視覚による外界の認識の過程、特に視覚認識における注意や短期記憶の機能に焦点を当て、その研究方法論と最新の知見を解説する。行動実験を用いた研究、脳波測定研究などを取り上げる。心的現象を科学的に探求するための方法論を学ぶことにより視覚的注意に関する研究のみならず、広く視覚科学、認知科学的研究に応用できる知識を身につけることを目指す。											
【到達目標】											
正答率や反応時間を主たる指標とする行動実験のデータ解析に必要な基本的スキルを身に付ける。単に手法を学ぶのではなく、その理論的背景を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の予定で講義を行う。各テーマ2週程度の授業を行う。講義の進捗により若干の内容の変更がありうる。											
<ul style="list-style-type: none"> 1 - 2回．心理物理学的測定法 3 - 4回．信号検出理論の基礎 5 - 6回．信号検出理論の発展：強制選択と視覚探索 7 - 8回．信号検出理論の発展：有限状態モデルと視覚記憶 9 - 10回．信号検出理論の発展：弁別・同定課題と物体認識 11 - 12回．反応時間解析 13回．脳波測定とその解析 14回．授業内試験（問題演習） 15回．フィードバック 											
【履修要件】											
心理学、認知科学の基礎的な知識があるとよいが必須ではない。											
【成績評価の方法・観点】											
最終回の授業に筆記試験を行う											
【教科書】											
教科書は用いない。											
【参考書等】											
（参考書） なし。											
【授業外学修（予習・復習）等】											
自分自身の実験データなどで使ってみる。実験を計画する際に解析手法まで考える。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学5

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		情報学研究科 教授 熊田 孝恒 情報学研究科 教授 西田 眞也 情報学研究科 准教授 中島 亮一 情報学研究科 講師 水原 啓暁 非常勤講師 佐藤 弥			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知科学基礎論									
[授業の概要・目的]											
<p>視覚認知、注意、記憶、意識、実行機能、感情などを中心に人間の認知機能に関わる概念、及び、その脳内メカニズムを解説する。また、認知機能を理解するための心理学的手法、認知機能と脳との関係を明らかにするための機能的脳画像解析手法などについても詳細に解説する。さらには、社会への適用に関するトピックスも取り上げる。</p> <p>This lecture elaborates on the issue of brain mechanisms such as visual recognition, attention, memory, consciousness, executive function, and emotion. In addition, technical issues of experimental psychology and functional brain imaging are introduced. The applied aspects of these issues are also explained.</p>											
[到達目標]											
<p>人間の認知過程を理解するのに必要な認知科学の基礎知識を得ることができる。また、心理学実験や脳計測実験の実例を通して、基礎的な知見がどのように得られたかを理解できるようになる。さらには、情報学などの関連領域との関係、ならびに、基礎的な知見がどのように日常生活における認知的な問題と関係しているかについても理解を広げることができる。</p> <p>Basic knowledge and techniques for understanding of human cognitive system can be learned.</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 脳の基礎 (水原) 3. 視覚情報処理の基礎 (西田) 4. 基本的な視覚属性の知覚 (西田) 5. 複雑な視覚属性の知覚 (西田) 6. 知覚的意思決定 (三好) 7. 注意 (中島) 8. アクション (中島) 9. 記憶 (水原) 10. 意識 (三好) 11. 実行機能 (熊田) 12. 感情 (佐藤) 13. 社会的認知 (佐藤) 14. 認知の個人差, 加齢変化, 障害 (熊田) 15. フィードバック <p>---</p>											
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

心理学(特殊講義)(2)

1. Introduction
2. Basics of the brain
3. Basic of visual information processing
4. Visual perception for simple attributes
5. Visual perception for complex attributes
6. Perceptual decision
7. Attention
8. Action
9. Memory
10. Consciousness
11. Executive function
12. Emotion
13. Social cognition
14. Individual difference, aging and deficits of cognition
15. Feedback

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回、講義中に行うまたは、講義中に出題し、期限内に提出を求める小レポートにより評価（講義の最後を実施するとは限らないので要注意）

これらは通常のテストと同等に扱う。

フィードバックを除く14回分を10点満点で採点し、合計140点満点を合計100点に換算する（小数点以下切り上げ）。したがって、6回以上、小テストを受けていない場合には、残りが満点であったとしても合格点には達しないので注意すること。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中の指示により、予習復習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学6

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 黒島 妃香			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		比較認知特論									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、ヒトを含む多様な動物の認知能力に関する最先端の研究を学び、比較認知科学的観点から心の進化を考察することにある。											
【到達目標】											
比較認知科学では、対象とする動物種に応じた適切な実験手続きが求められる。最先端の研究を通して、多様な実験手法について学ぶとともに、実験から得られた結果をどのように位置づけ、比較し、考察するかについて習得する。また、実証的研究を通して心の進化について考察する。主に、意識、内省、感情に関連する内容を扱う。											
【授業計画と内容】											
第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 講師から2回ないし3回にわたり、ヒトやヒト以外の動物を対象とした認知に関連する研究を紹介し、基礎的知識を養ってもらおう。続く回では、各受講者に講義で扱ったトピックに関連する最新の研究論文を紹介してもらい、受講者全員で研究法、考察に関する具体的な議論を行う。講義は基本3回ないし4回で1トピックの割合で進める。 第15回 心の進化に関する議題に対して各受講者に意見を発表してもらい、全員で議論する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
毎回の討論内容（30％）及び、発表担当回での発表と討論（40％）、最終回での討論（30％）により評価する。											
【教科書】											
特に用いない。必要な資料は準備する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
毎回トピックに関連した文献を調べ、議論に積極的に参加すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学7

科目ナンバリング		G-LET28 67131 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		日本女子大学 人間社会学部心理学科 准教授 伊村 知子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		比較認知発達概論									
【授業の概要・目的】											
<p>ヒトの心は、発達とともに変化するものであると同時に、環境への適応をとおして形づくられた進化の産物である。この講義では、発達と進化の視点から心理学の成り立ちをとらえることにより、人の心の基本的な仕組み及び働き、ヒトに固有の心の特徴、心の普遍性と多様性について理解を深める。また、ヒトの持つ高度な知性として、言語、心の理論、協力行動、道徳、文化などのトピックを取り上げ、他の動物にもそのような知性の要素が認められるのかを比較することにより、ヒトの心のどのような性質が人間らしさを生み出しているのかを考察する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・心のなりたちについて生物学的な視点、進化と発達の視点から考えることができる。 ・人間の認知システムの特徴を人間以外の動物との比較の視点から説明することができる。 ・人間の認知システムの特徴を環境への適応の産物として捉えることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 認知の進化と発達 第2回 歴史と方法 第3回 知覚（色彩視・立体視・形態視） 第4回 認知（顔認知・空間認知・部分処理と全体処理） 第5回 記憶 第6回 物体認識 第7回 自己認識 第8回 心の理論 第9回 協力行動 第10回 情動 第11回 言語・コミュニケーション 第12回 文化（社会学習） 第13回 脳と心の進化 第14回 心と身体の発達 第15回 全体のまとめ （計画は講義の進行状況により変更されることがあります。）</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 心理学(特殊講義) (2)へ続く -----											

心理学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

すべての授業回終了後にレポートを課し、その内容によって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

特になし。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学8

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		オセアニア諸言語概説									
【授業の概要・目的】											
世界の言語の約四分の一がオセアニアに分布する。この講義ではオセアニアの諸言語の言語特徴についての知識を身につけてゆきながら、それらを例として言語研究の方法をまなぶ。前期は代名詞、音素、危機言語、指示詞、所有表現、動詞の屈折などのトピックを取り上げる。											
【到達目標】											
オセアニアに分布する言語には南島語族(オーストロネシア語族)の諸言語、パプア諸語、オーストラリア諸語が含まれる。授業の到達目標は、この講義で取り上げるいくつかの言語類型特徴・言語現象と分析方法について理解するとともに、それらについて、オセアニアでは言語グループ別にいかなる傾向が見られるのか把握することである。											
【授業計画と内容】											
以下のとおり予定しているが、受講者の理解度によって変更する可能性がある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに オセアニア諸地域と言語分布の概要 2~4. 代名詞 5~7. 音素(母音・子音) 8. 危機言語 9~11. 指示詞 12~13. 所有表現 14. 動詞の屈折 15. まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する Dixon, R. M. W. (2002) Australian Languages, Cambridge University Press.											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

Foley, William A. (1986) *The Papuan languages of New Guinea*, Cambridge University Press.
Lynch, John (1998) *Pacific Languages: An Introduction*, University of Hawai'i Press.
Lynch, John, Malcolm Ross, and Terry Crowley (2002) *The Oceanic Languages*, London: Curzon Press.
Palmer, Bill (ed.) (2018) *The Languages and Linguistics of the New Guinea Area*. Berlin/Boston: De Gruyter Mouton.

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内で多くの論文・書籍を紹介するので、復習時には配布資料を見返すだけでなく、研究書や論文を手に取り理解を深めてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとっていただければ面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学9

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1（7週間） 2. Hymn 2（7週間） 3. フィードバックなど（1週間） 											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学10

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本語話しことばの文法									
【授業の概要・目的】											
この授業では、日本語の話しことばの規則性の観察を通して、音声言語をつかさどる基本的な概念と原理を学ぶ。より具体的には、文法に表出性と非流暢性の概念を持ち込むことで、現実の発話がどのように説明されるかを検討する。											
【到達目標】											
以下の能力を身に付けることを達成目標とする。 [1] 話しことば研究を推進するための基礎的な知識と技法を、受講者が自身で獲得していけるようになる。 [2] コミュニケーション研究、音声研究、そして文法研究を含む統合的な研究枠組みを自ら構想できるようにする。											
【授業計画と内容】											
各回の内容は以下のとおりだが、受講者の理解度や議論の展開次第では変更の可能性はある。											
第1回 コミュニケーションの中の日本語の文法											
第2回 組み合わせの文法ときもちの原理											
第3回 第2回の補足、議論											
第4回 場面（特に発話場）に基づく文法											
第5回 場面（特に会話場）に基づく文法											
第6回 第4回・第5回の補足と議論											
第7回 伝達に基づくコミュニケーション行動観の批判的検討											
第8回 意図に基づくコミュニケーション行動観の批判的検討											
第9回 第7回・第8回の補足と議論											
第10回 唯文主義を超えて（総論）											
第11回 自立性が無い接ぎ穂発話は文発話か？											
第12回 第10回・第11回の補足と議論											
第13回 名詞一語発話は文発話か？											
第14回 第13回の補足と議論											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

定延利之(編)『発話の権利』(ひつじ書房, 2020年) ISBN:978-4894769830 (第5回・第7回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『コミュニケーションと言語におけるキャラ』(三省堂, 2020年) ISBN:978-4385349121 (第8回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『文節の文法』(大修館書店, 2019年) ISBN:9784469213751 (第2回・第4回・第5回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『コミュニケーションへの言語的接近』(ひつじ書房, 2016年) ISBN:978-4894769472 (第7回・第8回の授業内容に最もよく関連する。)

[授業外学修(予習・復習)等]

復習を怠らないでほしい。

(その他(オフィスアワー等))

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとってもらえば面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学12

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 谷口 一美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知意味論研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知意味論を中心に取り扱い、メタファーやメトニミー、主観性など言語の意味拡張に関わる様々な現象を考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業では受講生の興味関心や履修状況に応じて、以下の認知言語学（特に認知意味論）の主要テーマをいくつか取り上げ、文献を講読する。それぞれ2週前後、授業を行う予定である。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：認知言語学の理論的概要 第3回：言語学と心理学の関わり（1）：図と地の分化（導入） 第4回：言語学と心理学の関わり（1）：図と地の分化（考察） 第5回：言語学と心理学の関わり（2）：視線と主観性（導入） 第6回：言語学と心理学の関わり（2）：視線と主観性（考察） 第7回：カテゴリー化と言語（1）：プロトタイプ・カテゴリー（導入） 第8回：カテゴリー化と言語（1）：プロトタイプ・カテゴリー（考察） 第9回：カテゴリー化と言語（2）：抽象化とスキーマ（導入） 第10回：カテゴリー化と言語（2）：抽象化とスキーマ（考察） 第11回：イメージ・スキーマと言語の意味（導入） 第12回：イメージ・スキーマと言語の意味（考察） 第13回：意味の拡張：メタファーとメトニミー 第14回：文法構文と意味 第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。 											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポート（70%）、授業への取り組みの状況（30%）から総合的に評価する。											
【教科書】											
論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学13

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本語話しことばの文法									
【授業の概要・目的】											
この授業では、日本語の話しことばの規則性の観察を通して、音声言語をつかさどる基本的な概念と原理を学ぶ。より具体的には、文法に表出性と非流暢性の概念を持ち込むことで、現実の発話がどのように説明されるかを検討する。											
【到達目標】											
以下の能力を身に付けることを達成目標とする。 [1] 話しことば研究を推進するための基礎的な知識と技法を、受講者が自身で獲得していけるようになる。 [2] コミュニケーション研究、音声研究、そして文法研究を含む統合的な研究枠組みを自ら構想できるようにする。											
【授業計画と内容】											
各回の内容は以下のとおりだが、受講者の理解度や議論の展開次第では変更の可能性はある。											
第1回 コミュニケーションの中の日本語の文法 第2回 文節発話・節発話は文発話か？ 第3回 オノマトペ発話 第4回 感動詞発話 第5回 第2回～第4回の補足と議論 第6回 非流暢性の発話1 第7回 非流暢性の発話2 第8回 第6回・第7回の補足と議論 第9回 ドリフトイントネーション 第10回 語アクセントとイントネーション 第11回 「枝分かれ」説の検証 第12回 第9回～第11回の補足と議論 第13回 アクセント合成 第14回 並列助詞の偏った分布 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

定延利之(編)『発話の権利』(ひつじ書房, 2020年) ISBN:978-4894769830 (第5回・第7回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『コミュニケーションと言語におけるキャラ』(三省堂, 2020年) ISBN:978-4385349121 (第8回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『文節の文法』(大修館書店, 2019年) ISBN:9784469213751 (第2回・第4回・第5回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『コミュニケーションへの言語的接近』(ひつじ書房, 2016年) ISBN:978-4894769472 (第7回・第8回の授業内容に最もよく関連する。)

[授業外学修(予習・復習)等]

復習を怠らないでほしい。

(その他(オフィスアワー等))

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとってもらえば面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学14

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 山本 武史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		英語の音声・音韻									
【授業の概要・目的】											
英語の音声・音韻について概説し、特に音節構造、強勢付与、形態論との関わりなどにおいてまだ解決されていない問題や意見が分かれている問題について議論する。テキストを使用するが、授業内容はそれに縛られず、受講生が自身の考えでデータを分析することに重きを置く。											
【到達目標】											
英語の音声・音韻に関する基本的知識を習得し、さまざまな問題を定説にとらわれず自身で解決する力を養う。											
【授業計画と内容】											
以下に各回の内容を当初の予定として示すが、初回の授業で受講者の知識を確認して変更することがある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要の説明 2. English phonetics: Consonants 3. English phonetics: Vowels 4. The phonemic principle and English phonemes 5. English syllable structure (1): Phonotactics 6. English syllable structure (2): Syllabification 7. Rhythm and word stress in English (1): The Latin stress rule 8. Rhythm and word stress in English (2): Remaining problems 9. Rhythm, reversal, and reduction 10. English intonation 11. Graphophonemics: Spelling-pronunciation relations 12. Variation in English accents 13. An outline of some accents of English 14. First language (L1) acquisition of English phonetics and phonology 15. Second language (L2) acquisition of English phonetics and phonology 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30点）および期末レポート（70点）による。平常点は授業中の議論への活発な参加を評価する。4回以上（4回を含む）欠席した者には単位を与えない。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[教科書]

Carr, Philip 『English Phonetics and Phonology: An Introduction, 3rd edn.』 (Wiley-Blackwell) ISBN: 9781119533740

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の予習、復習はもちろんであるが、調音音声学や音韻論に関する基礎的知識が不足している者は各自その補強に努めること。

(その他(オフィスアワー等))

授業時以外の連絡はメール (ichheissetakeshi@lang.osaka-u.ac.jp) によること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学15

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 大学院言語文化研究科 教授 宮本 陽一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		統語論研究									
【授業の概要・目的】											
統語理論のゴールは、人間の持つ言語能力の研究を通して人間の心（mind）を理解することにある。この1つの試みとして生成文法理論がある。本講義では、生成文法理論において広く議論されている英語の疑問文（移動現象）に注目しながら、生成文法理論の考え方を学んでいく。											
【到達目標】											
<p>(1) 生成文法理論の基本的な考え方が理解できるようになる。</p> <p>(2) 疑問文に関する理論発展が理解できるようになる。</p> <p>(3) 樹形図, ブラケット等を用いて言語（特に英語と日本語）の基本的な文の構造が表現できるようになる。</p> <p>(4) 生成文法理論の枠組みにおいて日英語の統語的な違いが理解できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で講義を進める。但し、講義の進み具合により、多少の変更はあり得る。</p> <p>第1回：オリエンテーションならびに文の構造</p> <p>第2回：平叙文の構造</p> <p>第3回：疑問文の構造</p> <p>第4回：疑問文にかかる制約（基本概念）</p> <p>第5回：疑問文にかかる制約（帰結）</p> <p>第6回：疑問文にかかる制約（問題点）</p> <p>第7回：格</p> <p>第8回：障壁理論（基本概念）</p> <p>第9回：障壁理論（練習）</p> <p>第10回：障壁理論（帰結）</p> <p>第11回：障壁理論（問題点）</p> <p>第12回：相対最小性</p> <p>第13回：ミニマリストプログラム</p> <p>第14回：日英語比較（削除と移動）</p> <p>第15回：日英語比較（数量詞と量化詞）</p>											
【履修要件】											
言語学概論程度の知識があることが望ましい。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

課題（20%）と期末レポート（80%）の成績を総合的に評価する。授業の内容を踏まえ、独創的な視点のもと、必要なデータ収集・分析を行い、更にその帰結を提示した期末レポートを高く評価する。

[教科書]

使用しない

ハンドアウトを配布する場合もあるが、授業は基本的に板書で進める。

[参考書等]

（参考書）

宮本陽一 『生成文法の展開：「移動現象」を通して』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-288-7

[授業外学修（予習・復習）等]

予習・復習を必ず行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 助教 倉部 慶太			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東南アジア大陸部諸語の言語学									
【授業の概要・目的】											
<p>東南アジア大陸部は、タイ語、ビルマ語、ベトナム語など、様々な系統と類型の多様な言語が分布する。一方で、系統を超えて共通する多くの言語特徴も観察される。同地域に隣接する中国語や島嶼部の言語には、東南アジア大陸部的な言語特徴を示す言語も現れている。この講義では、音韻・形態・統語・語彙・意味・文字・系統・類型・言語接触・言語ドキュメンテーションなど様々な観点から、東南アジア大陸部の諸言語を概説し、これらの言語が言語多様性・普遍性・地域性などの観点からどのように位置付けられるかを考える。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 東南アジア大陸部諸語の基礎知識を身につける ・ 東南アジア大陸部諸語を普遍性と多様性の両面から理解する ・ 言語学的視点で言語を分析する能力を養う ・ 問題意識を持ち、自主的に研究テーマを探せるようになる 											
【授業計画と内容】											
【9月5日】											
第1回：系統分類											
第2回：類型概観											
第3回：言語接触											
【9月6日】											
第4回：音韻論1：分節音・音節構造											
第5回：音韻論2：声調・発声・イントネーション											
第6回：音韻論3：声調の発生と分岐											
【9月7日】											
第7回：品詞分類											
第8回：形態論1：派生・重複											
第9回：形態論2：複合・精巧化・イオン化											
【9月8日】											
第10回：統語論1：名詞句と名詞修飾											
第11回：統語論2：アスペクト・ムード・ボイス											
第12回：統語論3：動詞連続											
【9月9日】											
第13回：意味論：意味地図・語彙化・文法化											
第14回：言語ドキュメンテーションとアーカイビング											
第15回：文字論・フィードバック											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

言語学(特殊講義) (2)

[履修要件]

言語学の入門・概論クラスを履修していることが望ましいが必須ではない。東南アジア諸語に関する事前知識は不要である。

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業への参加状況）（50%）およびレポート（50%）

[教科書]

授業中に資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

初回授業で別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

この集中講義は前期の採点報告日以降に実施するため、成績報告が遅れる場合がある。授業を通して、履修者からの積極的な質問やコメントを歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学17

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		オセアニア諸言語概説									
【授業の概要・目的】											
世界の言語の約四分の一がオセアニアに分布する。この講義ではオセアニアの諸言語の言語特徴についての知識を身につけてゆきながら、それらを例として言語研究の方法をまなぶ。後期は数詞、格、語順、言語系統、ピジン・クレオール、スイッチ・リファレンス、超分節音素などのトピックを取り上げる。											
【到達目標】											
オセアニアに分布する言語には南島語族(オーストロネシア語族)の諸言語、パプア諸語、オーストラリア諸語が含まれる。授業の到達目標は、この講義で取り上げるいくつかの言語類型特徴・言語現象と分析方法について理解するとともに、それらについて、オセアニアでは言語グループ別にいかなる傾向が見られるのか把握することである。											
【授業計画と内容】											
スケジュールは以下の通りだが受講者の理解度に応じて変更する可能性がある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに オセアニアの言語についての統計情報 2~3. 数詞 4~5. 格 6~7. 語順 8~10. 文字、言語系統 11~12. ピジン・クレオール 13. スイッチ・リファレンス 14. 超分節音素 15. まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

Dixon, R. M. W. (2002) Australian Languages, Cambridge University Press.

Foley, William A. (1986) The Papuan languages of New Guinea, Cambridge University Press.

Lynch, John (1998) Pacific Languages: An Introduction, University of Hawai'i Press.

Lynch, John, Malcolm Ross, and Terry Crowley (2002) The Oceanic Languages, London: Curzon Press.

Palmer, Bill (ed.) (2018) The Languages and Linguistics of the New Guinea Area. Berlin/Boston: De Gruyter Mouton.

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内で多くの論文・書籍を紹介するので、復習時には配布資料を見返すだけでなく、研究書や論文を手に取り理解を深めてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとっていただければ面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学18

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1（7週間） 2. Hymn 2（7週間） 3. フィードバックなど（1週間） 											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学19

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪学院大学 情報学部 准教授 笹間 史子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		調音音声学									
【授業の概要・目的】											
世界の言語の大半は音声を媒体としており、音声学の知識は言語記述に欠かせない。一般に音声の記述にはIPA (International Phonetic Alphabet, 国際音声記号) が用いられる。本演習は、実習をとおしてIPAに習熟することを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ IPAの発音を身につける。 ・ 音声を発する際に、音声器官のどこで何が起きているのか内省できるようになる。 ・ IPAを用いて音声表記ができるようになる。 ・ IPAの発音・聞き取りの習得をとおして、さまざまな言語音の記述をおこなうための基礎をつくる。 											
【授業計画と内容】											
<p>音声器官、気流、発声について説明したのち、IPAの発音・聞き取り練習をおこなう。また、受講生に各自の学習言語からの例を持ちよってもらい、その発音・表記について検討する。</p> <p>第1回 イントロダクション、音声器官のしくみ 第2回 気流と発声 第3回 破裂音 第4回 鼻音、ふるえ音、はじき音 第5回 摩擦音、小テスト1 第6回 摩擦音 第7回 接近音、その他の子音 第8回 非肺気流による子音 第9回 非肺気流による子音、小テスト2 第10回 子音のまとめ、表記練習 第11回 第一次基本母音 第12回 第二次基本母音、その他の母音 第13回 母音のまとめ、表記練習、小テスト3 第14回 総復習と発表 第15回 総復習と発表</p> <p>小テストは第5回、第9回、第13回を予定しているが、授業の進み具合により変更する可能性がある。</p>											
【履修要件】											
特に要件は設けないが、言語学概論等の授業で音声学の基礎を学んでいることが望ましい。											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

以下の合計で評価する。

- ・平常点（20点、発表を含む）
- ・小テスト（3回の聞き取りテスト、各10点）
- ・発音テスト（40点）
- ・レポート（10点）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で学んだ音の発音・表記を確認しておくこと。

授業中にできるようにならなかった発音については各自で練習し、必要ならば次回以降の授業時（授業の前後）に担当者に確認すること。

授業で学んだことにもとづき、自らが学習する言語の音声をあらためて観察するとともに、観察結果を授業に持ち寄ってほしい。

（その他（オフィスアワー等））

実習であるので、休まないこと。

休んだ回の内容については、書籍、CDやネット上の音声などを活用して確認しておくこと。

授業中は他の受講生の発音にもよく耳を傾けること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学20

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37											
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授				パリハワダ ナルチラ	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語		
題目		「魅力的な日本語」・「難しい日本語」を題材とした日本語学・日本語教育的探究											
【授業の概要・目的】													
日本語学習者の「日本語学習の目的」として「日本語そのものへの興味」が常に上位にランキングされる。その理由は果たして何か。学習者が惹かれる日本語の特徴とは何か。本授業では、日本語・日本文化を主専攻とする日本語・日本文化研修留学生(日研生)と共に、「魅力的な日本語」及び「難しい日本語」の学習項目を選定し、多角的に分析する。日本人学生・日研生を含む混在グループで、誤用分析、用法分析、教科書分析等を行いつつ、日本語の魅力、特徴に迫る。													
【到達目標】													
本授業の到達目標は、 (1) 日本語に対する相対的な見方を形成しつつ、その背景にある社会文化的な諸要素に対する理解力を高めること (2) 日本語教育の基礎を学びつつ、選定した学習項目・用法を基にその基礎的応用力を習得することである。													
【授業計画と内容】													
以下の通りに進めていく予定であるが、履修者の興味や背景に応じて変更する場合もある。													
第1回 ガイダンス、初級日本語学習者の疑似体験、グループ形成													
第2回 日本語学習者の初歩的動機/グループワーク : テーマ選定													
第3回 漫画・アニメ・J-Popの日本語/グループワーク : 選定した学習項目の分析													
第4回 教授法とシラバス/グループワーク : 選定した学習項目の分析													
第5回 日本語らしさとは? /グループワーク : 他言語との比較													
第6回 教室活動/グループワーク : 教案作成													
第7回 日本語の特質I/グループワーク : 中間発表の準備													
第8回 グループ別中間発表及び前半の総括													
第9回 学習困難な日本語 学習を困難にしている理由とは? /グループワーク : テーマ選定													
第10回 「自然な日本語」とは? /グループワーク : 選定した学習項目の分析、他言語との比較													
第11回 教科書分析/グループワーク : 教科書分析と改善案													
第12回 社会・文化的要素への依存度の高い学習項目の扱い方/グループワーク : 使い分け基準													
第13回 誤用分析の方法/グループワーク : 誤用分析													
第14回 日本語の特質II/グループワーク : 期末発表の準備 グループ別期末発表													
第15回 フィードバック													
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----													

言語学(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

以下の通りに評価する。

授業活動への参加度合：20%

中間発表・中間レポート：30%

期末発表・期末レポート：50%

なお、演習科目であるため出席も重視する。

【教科書】

使用しない

授業中にプリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)

白川博之監修 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(スリーエーネットワーク)
ISBN:ISBN4-88319-201-6

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上)』(ひつじ書房)
ISBN:ISBN4-89476-251-X

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(下)』(ひつじ書房)
ISBN:ISBN4-89476-252-8

その他適宜授業中に提示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

グループ活動を遂行する上で事前準備・授業外の共同学習が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

E-mailアドレス：palihawadana.ruchira.8n@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学21

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		言語使用と文法 頻度と文法化									
[授業の概要・目的]											
本演習では、言語構造（文法）は実際の言語使用の経験に基づき創発すると考える使用基盤モデル（usage-based model）の立場から言語構造の形成と変容を説明した著書をテキストとして講読し、実際の言語使用における生起頻度や人間の一般的認知プロセスが文法システムの形成と変容にいかに関わるかを理解することを目的とする。											
[到達目標]											
言語使用や人間の一般的認知能力が言語構造の形成と変容に果たす役割について理解する。											
[授業計画と内容]											
この授業では毎回、学部生と大学院生がペアとなり、テキストの割り当てられた部分についてハンドアウトを準備して内容の解説を行なう。その後、問題となる事項について全員で討議する。なお今年度は大竹昌巳がすべての授業を担当する。											
第1回 ガイダンス 第2回 イントロダクション 第3回 A usage-based perspective on language 第4回 Rich memory for language: exemplar representation 第5回 Chunking and degrees of autonomy 第6回 Analogy and similarity 第7回 Categorization and the distribution of constructions in corpora 第8回 Where do constructions come from? Synchrony and diachrony in a usage-based theory 第9回 Reanalysis or the gradual creation of new categories? The English Auxiliary 第10回 Gradient constituency and gradual reanalysis 第11回 Conventionalization and the local vs. the general: Modern English ‘can’ 第12回 Exemplars and grammatical meaning: the specific and the general 第13回 Language as a complex adaptive system: the interaction of cognition, culture and use 第14回 総括 第15回 フィードバック （但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性がある）											
[履修要件]											
特になし											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業での発表（40％），討論への積極的な参加（10％），期末レポート（50％）により評価する。

[教科書]

Joan Bybee 『Language, Usage and Cognition』（Cambridge University Press, 2010）ISBN:978-0-521-61683-6

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

受講者は教科書の担当箇所以外の部分も予め読んで内容を把握して授業に参加することが求められる。担当箇所の発表準備に当たっては、指定の教科書の内容をただまとめるだけでなく、他の資料にも当たって自分なりに調べる必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学22

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	言語使用と文法 効率性と語順類型論										
[授業の概要・目的]											
本演習では、言語使用における効率性の観点から文法システムの通言語的変異の説明を試みた著書をテキストとして講読し、コミュニケーションにおける効率性や情報処理の容易さと、文法規則、とりわけ線形順序（語順）に関わる慣習との間にどのような関わりがあるかについて考察をめぐらせることを目的とする。											
[到達目標]											
言語使用における効率性と語順の類型との関係について考察することにより、語順が単なる語の配列にとどまらない影響を言語使用にまで及ぼすことを理解する。											
[授業計画と内容]											
この授業では毎回、学部生と大学院生がペアとなり、テキストの割り当てられた部分についてハンドアウトを準備して内容の解説を行なう。その後、問題となる事項について全員で討議する。なお今年度は大竹昌巳がすべての授業を担当する。											
<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 イントロダクション</p> <p>第3回 Language variation and the Performance-Grammar Correspondence Hypothesis</p> <p>第4回 Three general efficiency principles (1)</p> <p>第5回 Three general efficiency principles (2)</p> <p>第6回 Some current issues in relation to efficiency</p> <p>第7回 The conventionalization of processing efficiency</p> <p>第8回 Word order patterns: Head ordering and (dis)harmony</p> <p>第9回 The typology of noun phrase structure</p> <p>第10回 Ten differences between VO and OV languages (1)</p> <p>第11回 Ten differences between VO and OV languages (2)</p> <p>第12回 Asymmetries between arguments of the verb</p> <p>第13回 Multiple factors in performance and grammars and their interaction</p> <p>第14回 Conclusions・総括</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>(但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性はある)</p>											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業での発表（40％），討論への積極的な参加（10％），期末レポート（50％）により評価する。

【教科書】

John A. Hawkins 『Cross-linguistic Variation and Efficiency』（Oxford University Press, 2014）ISBN:978-0-19-966500-6

【参考書等】

（参考書）

John A. Hawkins 『Efficiency and Complexity in Grammars』（Oxford University Press, 2004）ISBN:978-0-19-925269-5

【授業外学修（予習・復習）等】

受講者は教科書の担当箇所以外の部分も予め読んで内容を把握して授業に参加することが求められる。担当箇所の発表準備に当たっては、指定の教科書の内容をただまとめるだけでなく、他の資料にも当たって自分なりに調べる必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学23

科目ナンバリング		G-LET49 89624 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（初級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>バンツー諸語に属すスワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。バンツー諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法、語彙、文型に加えて実際の会話表現も学ぶことで、基本的な文法事項の習得と日常的な会話の理解をめざす。テキストを用いた会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行うことで、自分で文を組み立てる能力を身につける。また、テキストの会話表現には社会的・文化的事象が多く含まれる。その背景についての補足説明によって、東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深める。関連する実物や画像は授業中に紹介される。</p>											
【到達目標】											
<p>1：スワヒリ語の名詞クラスと基本文型を理解する 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てることができる 3：短い日常会話の流れを把握できる 4：東アフリカの文化や社会に関する知識を深める</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション / スワヒリ語文法の概要 第2回 第1課 / 現在時制 第3回 第2課 / コピュラ文 第4回 第4課 / 所有表現 第5回 第5課 / 未来時制 第6回 名詞クラス 第7回 第3課 / 存在表現 第8回 第1～5課の復習と補足説明 第9回 第6課 / あいさつ表現 第10回 第7課 / 過去時制 第11回 第8課 / 完了時制 第12回 第9課 / 形容詞 第13回 第10課 / 接続形 第14回 第6～10課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（初級）(語学)(2)へ続く -----											

スワヒリ語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習状況などの平常点（30％）、期末試験の結果（70％）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。
各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。
練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学24

科目ナンバリング		G-LET49 89625 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（中級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語中級									
【授業の概要・目的】											
<p>テキストはスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。テキストの基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその社会・文化的背景についても説明し、関連する実物や画像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深める。</p>											
【到達目標】											
<p>1：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解する 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話すことができる 3：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる 4：東アフリカの文化や社会に関する知識を深める</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション / 第1～10課の復習 第2回 第11課 / 時間 第3回 第12課 / 指示詞 第4回 第13課 / 使役 第5回 第14課 / 条件節 第6回 関係節 第7回 第15課 / 受身 第8回 第11～15課の復習と補足説明 第9回 第16課 / 相互形 第10回 第17課 / 仮想時制 第11回 第18課 / 複合時制 第12回 第19課 / ことわざ・なぞなぞ 第13回 第20課 / 手紙の書き方 第14回 第16～20課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

スワヒリ語（中級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習状況などの平常点（30％）、期末試験の結果（70％）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。
各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。
練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学25

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究所 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ラトビア語入門									
【授業の概要・目的】											
インド・ヨーロッパ語族バルト語派のラトビア語の実践的な学習を通じて、系統をともにする、または異にする言語間に見られる、ことばの体系性や普遍性、相違点を明らかにする。											
【到達目標】											
ラトビア語の実践的な学習を通じて、ことばの普遍性や体系性、個別言語間の相違を明らかにする。ことばをその周辺の諸現象（文化、社会、歴史、技術革新など）に有機的に関連付ける視点を得る。既習の外国語や言語学の知識、言語学習の経験や学習に対する動機が、ゼロから半期で学ぶ言語の学習の進捗や理解度にどのように影響するかを自身で確かめる。											
【授業計画と内容】											
授業回数は全14回、その他期末試験、フィードバックの回を設ける。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文字と発音 2. be動詞、名詞と形容詞の性・数 3. 第2変化動詞、位格 4. 第3変化動詞、対格 5. 属格 6. 第1変化動詞、与格 7. 復習 8. 動詞未来形 9. 動詞過去形、アスペクト 10. 形容詞の定・不定 11. 複合時制 12. 命令法、願望法 13. 義務法、伝聞法 14. 復習 											
試験 フィードバック											
また、折に触れてラトビアの文化や社会についても紹介する。											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への参加態度などの平常点（50％）・試験（50％）

[教科書]

堀口大樹 『ニューエクスプレスプラス ラトヴィア語』（白水社、2018）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内外に限らず、言語の学習では音読を重視します。

（その他（オフィスアワー等））

教室定員の枠で受講生を受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学26

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア語メディア言語学									
【授業の概要・目的】											
ロシア語メディア言語学に関するロシア語テキストを輪読し、現代メディアにおける言語使用や言語研究について知見を深める。											
【到達目標】											
<p>先行研究の論点を整理し、批判的に読み取る力を養う。 ロシア語の学術論文の読解力を向上させる。 自身のロシア語学および言語学における研究テーマや研究手法を見直す。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ロシア語メディア言語学に関して、以下の概説的な文献で扱われる様々なメディア言語学の概念を2-3回の授業で読んでいく。その際、受講者にロシア語のメディアからの具体例を収集し、授業時に紹介してもらうことがある。</p> <p>Medialingvistika v terminax i ponjatijax. Slovar'-spravochnik. Moskva: Flinta. 2018.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 導入 3. 導入 4. メディアディスコース 5. メディアディスコース 6. メディアと文法 7. メディアと文法 8. メディアと語彙 9. メディアと語彙 10. 広告のことば 11. 広告のことば 12. ハイパーメディアテキスト 13. ハイパーメディアテキスト 14. 予備 15. 総括 											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

【履修要件】

ロシア語のテキストを辞書を用いて読むため、中級以上のロシア語の読解力が必要である。

【成績評価の方法・観点】

平常点（70％）と期末レポート（30％）で総合的に評価する。なお、平常点は各授業への積極的な参加や課題への取り組みで評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する
講読する箇所を授業時に配布する。

【授業外学修（予習・復習）等】

翌週の授業で扱うテキストの該当部分をあらかじめ予習しておくこと。
またテキストで扱われている事象の具体例を、（ロシア語または他の言語で）収集してきてもらうこともある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 7M352 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		言語学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
修士論文および課程博士論文の質の向上を目的とする。大学院生が自らの研究について報告を行い、それに対する質疑応答、討論を通して、思考力や分析力を培う機会にする。											
[到達目標]											
1. 発表、それに関する質疑を通じて、自分の研究を深める。 2. 専門を異にする研究者に対して、自分の研究をわかりやすくプレゼンテーションすることができるようになる。 3. 自分と専門が違う研究者の発表を理解し、簡潔で、適切な質問ができるようになる。 4. 発表の論理を理解し、論理の問題点などを指摘できる。											
[授業計画と内容]											
大学院生は、各自の研究の進捗状況と成果について、年30回の授業の中で少なくとも1回の発表を行う。修士論文提出予定者は前期と後期にそれぞれ1回ずつ発表を行う。発表の後に、質疑・討論を行い、さまざまな言語学的問題についての理解を深める。発表者は発表の数日前に、自らの研究成果が反映されているハンドアウトを用意しなければならない。 前期 第1回 イン트로ダクション・発表 第2回～第14回 発表 第15回 発表・まとめ 後期 第1回 イン트로ダクション・発表 第2回～第14回 発表 第15回 発表・まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
授業時での発表や他の院生の発表に対する批判的なコメントや質問など、平常点で評価する											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

[教科書]

ハンドアウトを使用する

[参考書等]

(参考書)

特になし

[授業外学修(予習・復習)等]

発表者はハンドアウトを発表週の月曜日までに提出すること。ハンドアウトは読むだけで、論旨がわかるものとする。発表者以外は発表当日までに読み、質問を準備すること。質問、コメントは簡潔でわかりやすく、かつ、答えることが可能なものとする。

(その他(オフィスアワー等))

大学院博士後期課程修了者の参加も歓迎する

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 浅尾 仁彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		コーパスと言語研究									
【授業の概要・目的】											
言語研究において近年重要な役割を果たすようになってきているコーパスについて、その意義と限界を学ぶとともに、コーパスを実際に扱うための具体的な技術を身につけます。特定のコーパスやツールの使い方を学ぶのではなく、ソフトウェアが世代交代しても無駄になることのない基本的な考え方を身につけることを重視します。											
【到達目標】											
言語研究におけるコーパスの役割について理解するとともに、既製のコーパス検索ツール等に頼らずともコーパスを自在に扱えるようになるための基礎を身につけます。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 コーパスとしてのウェブ</p> <p>第3回 テキストデータ</p> <p>第4回 コーパスの作成・入手</p> <p>第5回 検索と正規表現</p> <p>第6回 コロケーションと統計の初歩</p> <p>第7回 論文紹介 (1)</p> <p>第8回 Pythonによるテキスト処理 (1) 検索</p> <p>第9回 Pythonによるテキスト処理 (2) 繰り返し処理</p> <p>第10回 論文紹介 (2)</p> <p>第11回 Pythonによるテキスト処理 (3) 集計</p> <p>第12回 Pythonによるテキスト処理 (4) ファイル処理</p> <p>第13回 研究発表 (1)</p> <p>第14回 研究発表 (2)</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>授業計画は仮のものです。内容・日程は、受講者の人数・興味関心に応じて柔軟に変更することがあります。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への積極的な参加 (30%)、宿題 (30%)、期末レポート (40%)											
【教科書】											
使用しない											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

石川慎一郎 『ベーシックコーパス言語学 第2版』 (ひつじ書房, 2021)

浅尾仁彦・李在鎬 『言語研究のためのプログラミング入門』 (開拓社, 2013)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内容の復習として、シンプルな宿題を2、3回程度課します。また、授業では、先行研究の紹介や、自身の研究プロジェクトについての発表をお願いすることがありますので、その準備が必要です。期末レポートについては早めのテーマ設定など、計画性が求められます。

(その他(オフィスアワー等))

- ・ パソコンを授業に持ち込めることが望ましい(OSなどは問わない)ですが、難しい場合は相談に応じます。
- ・ 授業時間外に連絡事項などある場合はメール等で対応します。詳細については授業中に共有します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 守田 貴弘			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目											
【授業の概要・目的】											
<p>構造・機能相関論の観点から，文法知識のうち，知っているつもりではあっても改めて説明を求められると困るものについて考察する．このような文法的知識は自分の知っている言語から構築されていると考えられるが，その知識は知らない言語では通用しない可能性もある．具体的な言語現象の分析を学びながら，文法的知識が実はあいまいであることを理解しながら，確かな知識に至るための方法としてどのような方法が優れているのかという方法論的な問題も扱う．</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・理論言語学の方法に馴染み，身近な言語現象を言語学的に分析できるようになる． ・現象の記述と理論構築の緊張関係を理解し，科学研究においては目的に応じて適切な方法を選択することが必要になるという態度が必要であることが理解できる． 											
【授業計画と内容】											
<p>授業回数はフィードバックを含め，全15回とする．主に以下の3つのトピックについて，例示してあるような問題意識にもとづいてそれぞれ4回から5回で講義する．各項目に充てる時間数は履修者の理解度を見ながら調整する．日本語，英語，フランス語を中心としながらも，馴染みのない言語についても議論する．</p> <p>(1) 主語という概念をめぐって 格とどのように違うのか，他の言語の事情はどうなっているのか，教育上の「意味上の主語」とは何なのか，主語はあった方がいいのか</p> <p>(2) 品詞分類の根拠を求めて 単語レベルで品詞は決まっているのか，名詞と動詞は本当に普遍的なものか，「内在的な思考と外在化された言語」という観点から，8品詞という伝統に関して</p> <p>(3) 「言語には意味がある」という思い込みについて そもそも意味が伝わるとはどういう現象なのか，意味の大半は無意識だという話，言語が意味伝達において果たしている役割はどの程度のものなのか</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点(授業への積極的参加度,小レポート)40%,定期試験60%。試験では講義内容への理解度と,問題に対し自ら考えて論述する力を評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の講義内容を復習し不明点は次回に質問すること。

(その他(オフィスアワー等))

質問等は随時メールで受け付ける。一方通行の知識伝達型の授業というよりは,対話を重視しながら進めていくので,意見を述べることをためらわないでほしい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学30

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア・旧ソ連諸国の言語状況									
【授業の概要・目的】											
ロシアや旧ソ連諸国における言語状況について体系的な知識を得る。											
【到達目標】											
言語と社会の関係性について基本的な知識を具体例とともに整理する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には講義形式で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 言語・民族・国家・社会 3. ロシア帝国・ソ連時代の言語状況 4. ロシア連邦の言語状況 5. ロシア連邦の言語状況 6. ロシア連邦の言語状況 7. ロシア語系住民 8. バルト3国の言語状況 9. バルト3国の言語状況 10. バルト3国の言語状況 11. ウクライナの言語状況 12. ベラルーシの言語状況 13. モルドバの言語状況 14. 中央アジアの言語状況 15. 総括 <p>授業回数は15回とする。</p>											
【履修要件】											
ある程度のロシア語の知識とキリル文字を読めること。											
【成績評価の方法・観点】											
成績評価については、平常点（70%）・学期末レポート（30%）に基づくものとする。平常点は各授業への積極的な参加や課題への取り組みではかる。											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃からことばと社会の關係にアンテナを張っておいてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

メールで事前に連絡のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 6M351 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 准教授 横森 大輔			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		会話分析入門：やりとりの中の言語と行為									
【授業の概要・目的】											
<p>私達は、日々、言葉を使って生活しています。誰かを食事に誘ったり、仕事を依頼したり、知らないことについて尋ねたり、というように、私達は言葉を使うことを通じて様々な「行為」を遂行し、社会生活を成り立たせています。ところで、ある発言がやっている行為が「誘い」なのか「依頼」なのか「質問」なのかそれともそれ以外の何かなのかといったことは、どうやって決まるのでしょうか（話し手の側は、どのような工夫をすることで、自分の行為を他者にきちんとわかってもらえるのでしょうか。聞き手の側は、どのような手がかりを利用することで、他者の行為を読み取っているのでしょうか）。この授業では、会話における「行為」に焦点を当て、会話分析という学問分野の教科書講読とデータ分析実習を行います。そのような授業活動を通じて、会話という、一見ただごちゃごちゃした雑多な営みの中に構造とメカニズムを見出す分析スキルを養い、身の回りの日常会話はもちろん、SNSでのコミュニケーションやメディアで伝えられる著名人のやりとりなど、様々な相互行為を観察・理解するリテラシーを磨くことを目指します。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・現実の会話における言語使用の実態について理解を深める ・個々の語彙や構文が相互行為の中で果たす作用について分析できる ・「隣接対」「ターン（発話順番）」「リペア（修復）」「行為連鎖」など会話分析の基礎概念についての知識を理解する ・言語コミュニケーションの実例を観察して、会話分析の基礎概念を参照して分析を行うことができるようになる ・日常生活やメディアにみられるコミュニケーションに対して、学術的な視点から観察・理解を行うことができるようになる 											
【授業計画と内容】											
データ分析実習と教科書の講読を交互に実施します。											
<p>第1回 [講義] 会話における行為とは？：言語行為論から会話分析へ 第2回 [実習] 会話を収録してみる 第3回 [講読] 第4章：連鎖組織 (pp.77-88) 第4回 [実習] 会話を文字化してみる 第5回 [講読] 第4章：連鎖組織 (pp.89-105) 第6回 [実習] 行為のペアをみつける 第7回 [講読] 第8章第4節：他者修復開始の発話形式 (pp.206-217) 第8回 [実習] 行為のペアを分類する 第9回 [講読] 第2章：行為の構成と理解 (pp.28-36) 第10回 [実習] 相互行為プラクティス（実践）を見つける 第11回 [講読] 第2章：行為の構成と理解 (pp.37-48) 第12回 [実習] 相互行為プラクティス（実践）を記述する(1) 第13回 [講読] 第11章：全域的構造組織 (pp.259-273)</p>											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

第14回 [実習] 相互行為プラクティス(実践)を記述する(2)

第15回 [実習] まとめ(受講生プレゼン)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業課題(予習課題、データ分析実習、発表担当)への取り組み:40点

期末レポート:60点

[教科書]

串田秀也・平本毅・林誠 『会話分析入門』(勁草書房,2017年) ISBN:978-4326602964

[参考書等]

(参考書)

平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実(編) 『会話分析の広がり』(ひつじ書房,2018年)

N.J.エンフィールド 『やりとりの言語学』(大修館書店,2015年)

[授業外学修(予習・復習)等]

・(隔週)教科書の予習(教科書の読解を補助する設問に、オンラインフォームから回答を提出する)

・(隔週)データ分析実習の作業

(その他(オフィスアワー等))

授業関連の連絡にはSlackを利用します。Slackを初めて使う方には初回(まで)に説明します。口頭での質問等がある場合は、授業前(火曜日昼休み)または別途調整した日程にて受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学32

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Gandhari and Indic Linguistics									
[授業の概要・目的]											
This course offers an introduction to Gandhari language and historical grammar of Middle Indic languages. Along with language and literature, the special script for writing Gandhari texts, namely Kharosthi script will be learnt as well. The reading materials include Khotan Dharmapada and inscription of King Senavarma. Therefore, this course provides glimpses into development of early Buddhism and early history of India as well as deposit of Buddha ' s relics.											
[到達目標]											
The participants will learn Kharosthi script, Gandhari language and historical grammar of Indic linguistics.											
[授業計画と内容]											
Week #01 Introduction: From Old-Indo-Aryan to Middle Indic Week #02 Introduction: Gandhara, Kharosthi script and Gandhari corpus Week #03 Introduction: Learn Kharosthi script and bilingual coins Week #04 Grammar: Historical grammar of Middle Indic Week #05 to #08 Reading: Dharmapada from Khotan Week #09 to #14 Reading: Senavarma inscription Week #15 Feedback											
[履修要件]											
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.											
[成績評価の方法・観点]											
Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam. Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Tocharian and Indo-European Linguistics									
【授業の概要・目的】											
<p>This course offers an introduction to Tocharian languages and historical grammar of Indo-European languages. Based on the knowledge of Indo-European linguistics presented at the beginning of the course, synchronic and diachronic (historical) grammar of Tocharian including nominal and verbal systems will be explained. Reading materials include Sanskrit-Tocharian bilingual texts and Tocharian B Vinaya and Jataka with well-preserved parallel texts in Sanskrit and Chinese.</p>											
【到達目標】											
<p>The participants will be able to read Tocharian manuscripts in Brahmi script, learn the basic grammar of Tocharian A and B as well as rudiments of Indo-European linguistics.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week #01 Introduction: Discovery and History Week #02 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 1 Week #03 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 2 Week #04 Script and Manuscripts Week #05 Tocharian B: nominal system (case), verbal system (ending, present) Week #06 Tocharian B: nominal system (declension class), verbal system (subjunctive) Week #07 Tocharian B: nominal system (adjective, pronoun), verbal system (preterite) Week #08 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga Week #09 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga Week #10 Tocharian B: reading Tocharian B Vinaya Week #11 Tocharian B: reading Tocharian B Jataka Week #12 Tocharian A: grammar Week #13 Tocharian A: reading Vinaya Week #14 Tocharian A: reading Vinaya Week #15 Feedback</p>											
【履修要件】											
<p>Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.</p>											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

Melanie Malzahn 『Instrumenta Tocharica』 (Heidelberg, 2007) (for the Brahmi script)

Wolfgang Krause, Werner Thomas 『Tocharisches Elementarbuch, Band I Grammatik』 (Heidelberg, 1960)

Georges-Jean Pinault 『Chrestomathie tokharienne. Textes et grammaire』 (Paris, 2008)

(関連URL)

<https://www.univie.ac.at/tocharian>(Manuscript, text, grammar, dictionary, bibliography)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学34

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 安岡 孝一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		多言語情報処理論									
【授業の概要・目的】											
この授業では、コンピュータによる自然言語処理のうち、文法解析の手法に焦点をあてて講義をおこなう。古典中国語(漢文)、日本語、英語、フランス語、タイ語などの書写言語に対し、Universal Dependenciesを用いた依存構造(係り受け)解析について、演習形式で講義を進める。											
【到達目標】											
書写言語とその処理における「モデル化」というものが、どのような形でおこなわれているのか理解する。											
【授業計画と内容】											
以下のような課題について、1課題あたり1~2週の授業をする予定である。ただし、この分野は進捗が早いので、世界の研究状況の進捗に合わせ、適宜、内容を最新のものに差し替える。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 依存文法とUniversal Dependencies (1回) 2. BERT/RoBERTaなどの事前学習モデル (1回) 3. 系列ラベリングと品詞付与 (1回) 4. 依存構造(係り受け)解析アルゴリズム (2回) 5. 古典中国語(漢文)の文法解析 (2回) 6. 日本語の文法解析 (2回) 7. 英語の文法解析 (1回) 8. フランス語の文法解析 (1回) 9. タイ語の文法解析 (1回) 10. その他の書写言語の文法解析 (3回) 											
【履修要件】											
特別な予備知識は必要としないが、Google Colaboratory(あるいはgmail)の使用経験があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
授業参加[議論]内容(50%)とレポート(50%)											
【教科書】											
適宜、資料を配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

依存構造(係り受け)解析を中心とする自然言語処理が、日頃の生活にどのように使われているかを、多少なりとも考えておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に定めないが、講義時間外の連絡は基本的に電子メールでおこなうこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 野原 将揮			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国語音韻学：中古音について									
【授業の概要・目的】											
<p>中古音は上古音、近世音を研究するための一つの定点であり、中国語諸方言、漢字音等を研究する上で不可欠の分野である。そこで本講義では中古音の基礎的な知識・概念を提供するとともに、関連する事項（特に中国語学の専門用語、字書、義書等）についても紹介する予定である。また中古音と上古音の関係についてもあわせて紹介したい。</p>											
【到達目標】											
<p>中古音の基本的な概念を理解する 中古音の声母・韻母の用語を覚える 中国語音韻学の専門用語を音声学の用語で説明ができる 字書・義書・韻書の成立と大まかな流れを理解する</p>											
【授業計画と内容】											
<p>特に前半では中古音の基本的な概念を理解することを目的とする。第10回までに中古音の基本的な専門用語を暗記すること。授業内でも工夫して暗記する時間を設ける予定である。</p> <p>第1回－第3回 ガイダンス 音声学、音韻論、中国語音韻学の用語について 第4回－第6回 切韻系韻書、反切について 第7回－第9回 韻図、方言、漢字音について 第10回 中古音の用語チェック 後半は中古音に関連する事項について紹介する。 第11回－第14回 字書、義書について 第15回 まとめ、フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>議論への積極的な参加（20%） 小テスト（50%） レポート（30%）</p>											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内で適宜紹介しますが、専門用語を覚えてもらいます。

(その他(オフィスアワー等))

授業内で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学36

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45											
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 社会学部 准教授				松谷 実のり	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語		
題目		社会調査入門(社会調査士科目A)											
【授業の概要・目的】													
<p>本講義では、社会調査の目的や意義、分類、方法と調査の具体例に関する基本的事項を学ぶ。量的調査と質的調査の違いを理解した上で、調査方法それぞれの特徴や実施上の注意点を理解する。社会調査のプロセスを把握し、社会調査の結果を読むため、および社会調査を自ら実施するための基礎的な技術を身につけることを目的とする。なお、この科目は社会調査士資格認定科目【A】に相当する。</p>													
【到達目標】													
<p>社会調査の目的と意義、歴史を理解する。社会調査の種類とその違いを理解し、目的に合わせて使い分けられるようになる。社会調査のプロセスに関する基本的事項を理解する。</p>													
【授業計画と内容】													
<ol style="list-style-type: none"> 1.社会調査の目的と意義 2.社会調査の歴史 3.社会調査の種類 4.社会調査の方法と設計 5.調査倫理 6.仮説と測定 7.全数調査と標本調査 8.既存統計の利用 9.質問紙調査の事例1 10.質問紙調査の事例2 11.質的調査の信頼性と代表性 12.ドキュメント分析の事例 13.参与観察の事例 14.インタビュー調査の事例 15.ナラティブ分析の事例 													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点】													
レポート													
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----													

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で取り上げるいずれかの方法により、自分で調査を設計して実施する。

(その他(オフィスアワー等))

他の社会調査士科目も受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学37

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 Stephane Heim			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		産業と労働社会学									
【授業の概要・目的】											
<p>産業と労働は、社会や経済の中で重要な役割を担っている。先進国において、18世紀から20世紀にかけて資本主義と製造業が大きな成長をとげ、現在は国際化とサービス産業が拡大され、さらに労働市場と雇用システムに様々な変化が起こっている。労働はモノやサービスを生産する経済的役割を果たしていると思われがちだが、社会的にはそれだけとは言えない。産業と労働は政治、市場、教育、社会階層などにも影響を与える。</p> <p>本授業では、「経済社会学」の観点から、労働と産業の経済・社会・政治的役割を考察する。日本の労働市場と雇用システム、欧州連合と労働問題、自動車産業の労働市場形成、サービス産業と就業形態の多様化、賃労働と福祉レジームの変化、などのケーススタディにおいて、産業と労働の社会的形成とその役割を学ぶことを目的とする。</p>											
【到達目標】											
本授業では、様々な事例を取り上げ、ディスカッションを交えながら産業・労働社会学の基本的な知識が得られる。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 産業と労働社会学のアプローチ</p> <p>第2回 雇用システムと労使関係</p> <p>第3回 企業内労働市場の形成</p> <p>第4回 日本型雇用システム</p> <p>第5回 日本労働市場の形成</p> <p>第6回 日本労働市場の変容</p> <p>第7回 賃金格差と社会階層の変化</p> <p>第8回 サービス産業の展開と就業形態の多様化</p> <p>第9回 賃労働と福祉レジームの形成・課題</p> <p>第10回 失業と非正規雇用の国際比較</p> <p>第11回 欧州連合単一市場の形成と労働問題</p> <p>第12回 フランスの雇用システム・賃金・労使関係</p> <p>第13回 自動車産業と労働市場の国際比較</p> <p>第14回 授業のまとめ</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
<p>受講生の関心により内容を変更することもある。</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポートによる(100%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義で使用する説明資料は事前に配布します。授業までに読んでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 先端総合学術研究科 教授 岸 政彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		質的調査の方法論									
【授業の概要・目的】											
<p>「他者の合理性」という概念をキーワードにして、質的調査の方法論上の問題について概説する。まずは古典的なエスノグラフィであるポール・ウィリスの『ハマータウンの野郎ども』を取り上げ、「理にかなった行為」がどのようにして歴史と社会構造に規定され、またそれらを規定していくかについて述べる。次に、より最近のエスノグラフィである丸山里美、石岡丈昇、上間陽子、打越正行らの作品を取り上げ、かれらがどのようにして他者の行為の「理由」を記述しているかを解説する。そして私自身の調査の経験から、「人の語りを聞くこと」とはどのようなことかについて考える。最後にマックス・ウェーバーの「理解社会学」に立ち戻りながら、「他者の合理性」を記述するとはどのようなことかについて述べる。他にも、聞き取り調査や参与観察を実践する場合の、方法論的・倫理的・政治的問題にも触れたい。これらの議論を通じて質的調査の方法論上の可能性と課題についての理解を深めることがこの講義の目的である。</p>											
【到達目標】											
この授業を通して、科学的方法としての質的調査の歴史、理論、方法、実践について総合的・体系的に学ぶ。あわせて倫理的問題についても議論を深める。											
【授業計画と内容】											
<p>1 導入 質的調査は何をするのか 2 一般化という問題 普遍性と固有性のあいだで 3 「ハマータウン」の教室で何がおこなわれていたのか(1) 4 「ハマータウン」の教室で何がおこなわれていたのか(2) 5 「理由のある行為」とは何か(1) ウィリスとブルデュー 6 主体的なものや状況的なもの 丸山里美 7 身体と意味 石岡丈昇 8 「裸足」とは何か 上間陽子 9 男であることの社会学 打越正行 10 語りのなかに引きずり込まれる 岸政彦(1) 11 語り手から名前を呼ばれる 岸政彦(2) 12 聞くという経験を書く 岸政彦(3) 13 「理由のある行為」とは何か(2) ウェーバー 14 方法/倫理/政治 15 まとめ 質的調査は何をすればよいのか</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート70%、平常点30%。

[教科書]

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』（2016）
ISBN:978-4-641-15037-9

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書、および授業中に紹介する文献は必ず読んでください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 溝口 佑爾			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		基本的な統計資料とデータの分析(社会調査士科目C)									
【授業の概要・目的】											
この講義では、社会調査や官庁統計などで得られたデータ(数量的データ)を分析する際に必要となる、基礎的な統計学の知識(記述統計)を教えます。具体的には、数量的データの特徴とその作成方法について簡単に解説した上で、一変数の情報を記述する方法(度数分布表、代表値、散布度の指標、ジニ係数、箱ひげ図など)、二変数間の関係を分析する方法(クロス集計表、相関係数、回帰分析など)を解説していきます。なお、本講義は社会調査士科目Cに対応する科目です。											
【到達目標】											
本講義の到達目標は以下の4つです。 01. 数量的データの特徴とその分析方法を理解する 02. 一変数の情報を適切に記述する方法(度数分布表、代表値、散布度の指標など)を理解する。 03. 二変数の関係を適切に分析する方法(クロス集計表、相関係数など)を理解する。 04. 1~3をつうじて、統計分析を含んだ情報(マスコミ・専門論文)を適切に評価できるようになる。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の授業内容を組んでいます。ただし受講生のスキル、理解度に応じて順序や回数を変えることがあります。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ統計学を学ぶのか?: 社会調査と統計分析、市民的教養としての統計学 2. 量的調査法の基本発想: データの縮減、量的調査と統計学の関係 3. データの縮約I: 度数分布、ヒストグラム 4. データの縮約II: 平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、四分位偏差 5. 分布を比較する: 標準化、偏差値、ジニ係数、箱ひげ図 6. 量的調査の方法: 調査票とデータセットの作成 7. 既存統計資料の活用: 収集方法と読み方 8. データの種類: 数量データ、カテゴリカルデータ、順序カテゴリカルデータ 9. 2つの変数の関係を分析するI: 二重クロス集計表、オッズ比、ファイ係数、クラマーのV 10. 2つの変数の関係を分析するII: 散布図、相関係数、ピアソンの積率相関係数 11. 2つの変数の関係を分析するIII: 単回帰分析 12. 2変数の関係を分析するIV: 変数間の関連の意味、相関関係と因果関係 13. 擬似相関と変数の統制I: 擬似相関、変数の統制、三重クロス集計表、偏相関係数 14. 擬似相関と変数の統制II: 因果推論、実験とリサーチデザイン 15. より高度な統計分析に向けて: 推測統計学、多変量解析 											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中に出す課題（45点 = 15点 × 3回）と期末レポート（55点）で成績を評価します。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

盛山和夫 『社会調査法入門』（有斐閣）ISBN:978-4641183056

谷合廣紀 『Pythonで理解する統計解析の基礎』（技術評論社）ISBN:978-4297100490

中室牧子・津川友介 『「原因と結果」の経済学』（ダイヤモンド社）ISBN:978-4478039472

[授業外学修（予習・復習）等]

・ Google Colaboratoryを用いた演習を計画しています。Googleアカウントを持っていない方は授業開始前に作成してください。

・ スマートフォンに加えてノートPCやタブレット等の情報機器がある程度使いこなせることを前提とします。

・ 情報機材を教室内からインターネットに接続した状態での受講を求める場合があります。

（その他（オフィスアワー等））

質問・連絡等はy.mizo@kansai-u.ac.jpまで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学40

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 現代社会学部 准教授 東 園子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		やくざ映画とジェンダー									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、1960～70年代の日本のやくざ映画を、ジェンダー論の観点から分析する。やくざの世界を描くやくざ映画は、1960年代から1970年代にかけて大量に制作され、激しい殺陣等のアクションや義理人情に厚い主人公像などが男性客を中心に人気を博し、当時の日本映画の主要なジャンルの一つだった。</p> <p>やくざ映画には「男」へのこだわりが見られ、女性の描き方も含めて、ジェンダー論的に興味深い対象となっている。</p> <p>授業では、実際にやくざ映画を鑑賞し、そこで描かれる男性像・女性像や、その変化等を分析する。</p>											
【到達目標】											
映画をジェンダー論の観点から分析できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の予定に従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいなどによって順序や内容を変えることがある。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2～3回 映画のつくり 第4～6回 任侠映画の基本的性質 第7回 やくざ映画の時代背景 第8～9回 男同士の関係と女性 第10～11回 男社会の中の女性 第12～15回 任侠路線から実録路線へ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（毎回の小レポート） 100点											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習 前回の授業内容の再確認。
復習 ノートを整理し、授業内容を振り返り、課題映画に対する考察を深める。

(その他(オフィスアワー等))

・授業で見ってもらう映画には字幕はなく、暴力的な表現が含まれます。

・オンライン授業になった場合、授業で用いる課題映画を、動画配信サービス等を利用して自分で見ってもらうことになります。
そのため、利用するサービスにもよりますが、最大で2~3000円程度の費用がかかる可能性があります。
それを承知の上で受講してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学41

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 落合 恵美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		家族とジェンダーの比較歴史社会学 日本とは何か									
【授業の概要・目的】											
<p>歴史社会学と比較社会学は時空を超えて社会の構造を比較する方法である。社会学とは社会の構造を明らかにする学問であるとするれば、社会学の王道と言ってよいだろう。ある社会の構造はその社会だけを観察しても十分にはわからない。他の構造をもつ社会と比較することにより初めて明らかとなることもある。</p> <p>本講義では、そのような意図をもって実施した2つのプロジェクトの方法と成果を紹介することを通じて、日本家族および日本社会とはどのようなものであるかを考える。日本家族は「家」と呼ばれ、日本社会論の要の位置を占めてきた。</p> <p>前半は、歴史人口学のプロジェクトを扱う。アナル学派、ケンブリッジグループなどの社会史研究の方法的柱のひとつである歴史人口学は、国際比較が発達した学問分野である。1990年代後半から実施したユーラシアプロジェクトおよびそれ以降の成果を中心に紹介し、「家」らしい日本家族が徳川時代の終盤に成立した過程を宗門人別改帳のデータベースを用いた分析結果から再現する。</p> <p>後半は、アジア諸国の国内でもっとも影響力のある学問的業績を収集し翻訳して共有する「アジアの知的共有財産」プロジェクトの最初の成果であるAsian Families and Intimacies (Sage, 2021)および『リーディングス アジアの家族と親密圏』（有斐閣 2022年）に基づき、家族とジェンダーのグローバルヒストリーを貫く論理を考察する。</p> <p>全体を通じて、世界の家族とジェンダーについての全体像を描くと同時に、日本とは何かという問いに答えを出したい。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 歴史人口学の方法と成果の概要を学ぶ。 2 家族とジェンダーのグローバルヒストリーを貫く論理について考える力をつける。 3 家族とジェンダーに注目することにより、日本とは何かという問いにどのような答えを出せるかを論じられるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 歴史社会学と比較社会学の社会理論 2 歴史人口学という方法 3 歴史人口学と家族史 4 家と直系家族 5 徳川日本のライフコース 6 徳川日本の家族と地域性 7 日本化する日本家族 8 アジアの重層的多様性 9 父系的社会 10 双系的社会 											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

- 11 双系的社会の父系化
- 12 近代化による疑似父系化
- 13 グローバル化
- 14 家族とジェンダーのグローバルヒストリーと日本
- 15 質疑と討論

第9～13回では、受講者が参考書中の章を読んで内容を発表する機会を設ける。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートにより評価する。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

落合恵美子編 『徳川日本のライフコース 歴史人口学との対話』(ミネルヴァ書房, 2006年)

落合恵美子編 『徳川日本の家族と地域性 歴史人口学との対話』(ミネルヴァ書房, 2015年)

落合恵美子・森本一彦・平井晶子編 『リーディングス アジアの家族と親密圏』(有斐閣, 2022)

OCHIAI Emiko and Patricia UBEROI eds. 『Asian Families and Intimacies』(Sage, 2021)

Ochiai Emiko and Hirai Shoko eds. 『Japanizing Japanese Families: Regional Diversity and the Emergence of a National Family Model through the Eyes of Historical Demography』(Brill, 2022)

【授業外学修(予習・復習)等】

参考書を読み、発表の準備をするなど。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学42

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 竹沢 泰子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人種・エスニシティ論									
【授業の概要・目的】											
<p>本年度は、人種差別・偏見・ステレオタイプについて考えたい。人は、森羅万象の情報を記憶するために分類を行う。しかし、分類行為自体は普遍的であるものの、分類の指標や境界は、社会的状況により可変的である。その分類が誰によって何のために創られ、どのような結果を招いたのかを、我々社会科学・人文学を学ぶ者は注視しなければならない。授業では、人種概念の成り立ちから、「コーカソイド」「モンゴロイド」等の用語が孕む西欧中心主義、人種とジェンダーの交錯、また現代における日常的な無意識の偏見やマイクロアグレッションについても扱う。動画やドキュメンタリーも一部使用する。大学院生は、授業の一部において課題論文に関する発表も行う。</p>											
【到達目標】											
<p>人種、民族、エスニシティ、ステレオタイプ等の基本的概念の定義を理解する。人種主義は、社会システムと個人の偏見が両輪となって引き起こされるものであることを理解する。これらに関する基本的文献を読解し、社会システムや個人の偏見に対する意識を高める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 オンディマンド授業「ブラック・ライブズ・マター運動の背景と課題」 第2#12316 4回 現代における人種差別 「人種」「民族」「エスニシティ」「ステレオタイプ」等の定義 第5回 課題論文に関する発表とディスカッション 第6回 オンディマンド授業「With コロナ時代における人間の「ちがい」と差別」ほか 第7#12316 9回 科学的人種主義 人種とジェンダー 第10回 課題論文に関する発表とディスカッション 第11#12316 14回 「システムック・レイシズム」とは？ 人種主義に抗うために 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
英語文献の基本的読解力											
【成績評価の方法・観点】											
<p>出席・提出物・討論、40% 発表 20%、学期末レポート40%</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

指定論文（コピー・PDFなど）

[参考書等]

（参考書）

事前に受講予定者に配布する詳細なシラバスに記載

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：毎週の課題論文を授業前に読んでおく。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーはアポイントメント制

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学43

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Title Fieldwork and Qualitative Research of Japanese Society									
【授業の概要・目的】											
<p>In this lecture, students will learn about the theory and practice of various qualitative research methods, such as participant observation, which is based on the separation of researcher and participant, and action research, which is not based on the separation of researcher/subject. The class will also include research ethics. Even with the limited time, the class will actually do fieldwork on education, welfare, immigrants and Buraku community .</p> <p>Students will also report on their own research themes for their thesis.</p> <p>In Kyoto City has large number of "old-comers" including Korean residents, and "new-comers" including marriage migrants and technical interns(TITP). Since social inclusion of those with multicultural background is one of the social issues as in government agreement, this class will clarify the actual situation by conducting fieldwork at areas with a long history of minorities. Minority areas have well-developed NGOs and other support organizations, and we will also look at welfare and support networks to understand safety nets.</p>											
【到達目標】											
To be able to conceptualize society through primary data gathering in Kyoto. This class requires field research within Kyoto to conceptualize Kyoto itself so that students can grasp Kyoto by collecting data and interpreting what is going on through field visit.											
【授業計画と内容】											
<p>The organization of course is as follows.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. introduction 2. qualitative research: methodology and theory (1) 3. qualitative research: methodology and theory (2) 4. qualitative research: methodology and theory (3) 5. history and society (outcast community field visit) 6. field visit to community 7. diversity in Kyoto (field visit to migrant community center) 8. listening and writing anthropology 9. education in Japan (field visit to public schools) 10. Japan as welfare society (field visit to welfare organization) 11. Action research 12. Students workshop (1) 13. Students workshop (2) 14. Students workshop (3) 15. conclusion / feedback <p>schedule may change due to scheduling.</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

reflection papers(50%) and term paper(50%).

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

Corrigall-Brown, Catherine, 2020, *Imagining Sociology: An Introduction with Readings*, 2nd ed., Ontario: Oxford University Press Canada.

Marvasti, Amir, B., 2004, *Qualitative Research in Sociology*, London: Sage Publications.

Mirfakhraie, Amir, 2019, *A Critical introduction to Sociology: Modernity, Colonialism, Nation-Building, Post-Modernity*, Dubuque: Kendall Hunt Publishing Company.

Scheper-Hughes, Nancy, 1995, "The Primacy of the Ethical: Propositions for a Militant Anthropology," *Current Anthropology*, 36(3): 409-440.

Scheper-Hughes, Nancy, 2009, "The Ethics of Engaged Ethnography: Applying a militant Anthropology in Organs-Trafficking Research," *Anthropology News*: 13-14.

Francis, Nyamnjoh, B., 2015, "Beyond an evangelising public anthropology: science, theory and commitment," *Journal of Contemporary African Studies*, 33 (1): 48- 63.

【授業外学修（予習・復習）等】

This course is also available for those who plan to write a paper without using qualitative research methods.

（その他（オフィスアワー等））

Please make an appointment through the email below.

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

(@) indicates @.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃 文学研究科 准教授 Stephane Heim 文学研究科 教授 落合 恵美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		次世代グローバルワークショップ The Next-Generation Global Workshop									
【授業の概要・目的】											
<p>世界30数か国の大学から大学院生と若手研究者の参加を得て14年間開催してきた実績のある「次世代グローバルワークショップ」を単位化したもの。 今年度は京都大学で開催する。応募者はスクリーニングの上、報告者を確定する。後日、コメントに従った修正のうえ、フルペーパーの提出を求め、年度末Proceedingsとして掲載する。9月末の開催を予定しているおり、場合によってはオンラインになる可能性がある。詳細については年度初めに掲載の予定 (http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/) これまでの開催についてもアジア研究教育ユニットのHPを参照のこと。</p> <p>The Next-Generation Global Workshop (NGGW) has been held annually since 2008 to provide an opportunity for early-career scholars to present their research and to have feedback from an international audience. Please see detail in call for papers as follows after April http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/</p>											
【到達目標】											
<p>テーマに従い英語論文を執筆し、英語で研究報告を行う。質問の受け答えや、研究者間の交流が主体的に行える。修士、博士レベルの参加者で構成されるため、国際舞台の第一のステップとして参加しやすく、成果は大きい。</p> <p>It has proved to be a pleasant and effective way for capacity building through mentorship of professors from different universities in different areas of the world. It has also provided invaluable opportunities for all participants to learn from their fellow participants with different perspectives and to deepen the understanding of various social phenomena in the world, particularly in Asia. Ultimately, the NGGW has served as a forum for scholars of different generations from various regions to build a common academic foundation by redefining Asia in the global context.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>参加者は統一テーマについて英語論文を執筆し、英語で研究報告を行う。参加にあたってはおおまかに以下のプロセスを伴う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．タイトルの作成 2．要旨の作成 3．応募書類の作成と応募 4．論文執筆（6000語程度） 5．校閲 6．発表原稿作成 7．発表演習 8．修正 											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

9. 報告

- 10. 大学教員からのコメントと返答
- 11. 全体のディスカッション
- 12. 研究者間交流
- 13. 論文のリライトと編集
- 14. 論文および研究構成に関する宣誓書の確認・提出
- 15. プロシーディングス掲載と確認

ワークショップでは世界各地からの参加者と同じセッションで報告し、やはり世界各地から参加する大学教員からコメントを受ける。国際会議での学術発表の実践的経験を積む貴重な機会である。

[履修要件]

参加希望者はあらかじめ発表要旨を提出し、選考を通った者のみが参加を認められる。

Applicants need to submit their abstracts in advance, and only those who pass the selection process will be accepted to participate.

[成績評価の方法・観点]

ワークショップ参加・報告とリライトした論文により評価する。詳細は別途説明する。Based on workshop presentation and preparation.

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Please see calls for papers after April
募集要項に従って準備を進める。

(その他(オフィスアワー等))

ワークショップ参加希望者は

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

を通じてアポを取る。(@)は@に。

Please get in touch with Prof. Asato asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

Or Kyoto University Asian Studies Unit

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学45

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学（特殊講義） Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		和光大学 専任講師 打越 正行			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		質的調査の方法（専門社会調査士科目J）									
【授業の概要・目的】											
<p>概要</p> <p>本講義では沖縄の周辺層の若者への社会調査にもとづいた沖縄社会論を展開する。</p> <p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄の暴走族、ヤンキーの若者たちが、建設業、性風俗経営、違法就労に就く過程に地元つながりが大きく効いていることを理解すること ・ 質的調査法で得られたデータに基づいて、彼らの職業選択における合理性について理解すること 											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 質的調査を計画し、実施することができる ・ 質的調査の結果を、論文の形にまとめることができる 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 オリエンテーション 講義方法、採点基準等について</p> <p>第2回 参与観察法について 暴走族の「パシリ」になる</p> <p>第3回 映像視聴 調査場面の紹介</p> <p>第4回 沖縄的共同性について 階層の視点から</p> <p>第5回 沖縄的共同性について ジェンダーの視点から</p> <p>第6回 地元つながりと建設業 製造業との違いに注目して</p> <p>第7回</p>											
----- 社会学（特殊講義）(2)へ続く -----											

社会学（特殊講義）(2)

建築業で一人前になる
データ解釈

第8回
建築業で一人前になる
データセッション&解説

第9回
ヤンキーうちなーぐち（沖縄方言）と地元つながりについて

第10回
性風俗経営者になる
データ解釈

第11回
性風俗経営者になる
データセッション&解説

第12回
生活史を読む
上間陽子『裸足で逃げる』

第13回
キャバ嬢になる
データ解釈

第14回
キャバ嬢になる
データセッション&解説

第15回
講義まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

- (1) コメントシート（10点×6回）
- (2) レポート（40点）
詳細は初回の講義でお伝えします

【教科書】

使用しない

社会学（特殊講義）(3)へ続く

社会学（特殊講義）(3)

[参考書等]

（参考書）

打越正行 『ヤンキーと地元』（筑摩書房、2019）ISBN:4480864652

上間陽子 『裸足で逃げる』（太田出版、2017）ISBN:477831560X

岸政彦・打越正行・上原健太郎・上間陽子 『地元を生きる』（ナカニシヤ出版、2020）ISBN:4779514975

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法』（有斐閣、2016）ISBN:4641150370

宮内洋 『体験と経験のフィールドワーク』（北大路書房、2005）ISBN:4762824763

（関連URL）

<https://blog.goo.ne.jp/uchikoshimasayuki>

<https://uchikoshimasayuki.jimdofree.com/>

<https://gendai.ismedia.jp/list/author/masayukiuchikoshi>

[授業外学修（予習・復習）等]

院生という立場を最大限活用して、積極的に人、モノ、シーンと出会い、そこでよく考えることが、本講義の事前・事後活動である。そうすれば、社会学は役に立つかもしれない。

（その他（オフィスアワー等））

講義計画はあくまで予定であり、受講者の興味関心に応じて大幅に変更される。講義に関心がある方は、どの研究科でも、また留学生、社会人、学部生、学外者など、どのような立場でも歓迎します（ただし本校の学生の教育環境に支障をきたさない限りとする）。なお情報提供が必要な方、子どもを連れて行かなければならないなどの場合は、事前にご相談ください。

m.uchikoshi@wako.ac.jp

打越正行（和光大学）

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学（特殊講義） Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 太郎丸 博			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会調査の実際（社会調査士科目G）									
【授業の概要・目的】											
社会調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひととおり体験的に学習する。そのような体験を通して、講義で得た知識の身体化を目指す。そのためには、授業時間外の作業が多く必要となる。また、他の受講者との相談や共同作業も多くなる。											
【到達目標】											
調査の企画、実施、データの入力、分析、報告書の作成ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1オリエンテーション 2 調査の企画 3仮説構成 4 調査項目の設定 5質問文・調査票の作成 6 プリテストと調査票の修正 7 対象者・地域の選定 8サンプリング 9 調査の実施（調査票の配布・回収、面接） 10 エディティング 11 集計、分析 12 データの視覚化 13 仮説検証 14 報告書の作成 15フィードバック <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1オリエンテーション 2 データの入力・読み込み 3 単純集計表、ヒストグラムの作成 4 変数の操作の基礎 5変数の操作の応用 6 クロス集計表、帯グラフの基礎 7 クロス集計表、帯グラフの応用 8 散布図、箱ヒゲ図の作成 9 データセットの分割・結合 10 独立性の検定 11平均値の差の検定 12 多重クロス表分析 											
----- 社会学（特殊講義）(2)へ続く -----											

社会学（特殊講義）(2)

13 回帰分析の基礎
14 回帰分析の応用
15 フィードバック

【履修要件】

社会調査士科目A～Eをあわせて受講することが望ましいが、強制ではない。

【成績評価の方法・観点】

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』（法律文化社）ISBN:978-4589032577

盛山 和夫 『社会調査法入門』（有斐閣）ISBN:978-4641183056

【授業外学修（予習・復習）等】

復習重視。宿題が頻繁に出る。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外にグループで実際の調査や調査票の作成、分析などを行う必要がある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学47

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(演習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 落合 恵美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		親密圏と公共圏の再編成 20世紀体制とその転換									
【授業の概要・目的】											
<p>親密圏と公共圏を対にして、その双方の変容、境界のゆらぎ、両者の関係の再編成をとらえようとする試みが、社会科学のさまざまな領域で見られるようになった。20世紀末の社会変容に伴って、従来の近代社会の基本構造となっていた公私の分離が自明性を失い、新たな社会構造が生み出されつつある現状を把握しようとする知的営為と言えよう。本演習では、親密圏/公共圏研究という新たな分野の基礎文献を読んで、理論的枠組みを共有し、その枠組みによって各々のテーマに接近する研究発表を行う。扱うテーマは、ジェンダー、福祉レジーム、労働、ケア、人間の再生産、グローバル化、構造と持続、制度とその変化、など多岐にわたり、これら以外のテーマでも柔軟に対応する。</p>											
【到達目標】											
<p>親密圏/公共圏研究という新たな分野の理論的枠組みを理解する。 その理論的枠組みにより個々の研究テーマに接近する応用力を獲得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1)親密圏/公共圏研究の理論的枠組みについて、授業担当者が講義する。(2回) (2)親密圏/公共圏研究に関する基礎文献を各自が読んできて、指定された発表者が整理した論点に沿って、疑問点や異なる見方について話し合う。演習担当者が適宜解説を加える。(10回) (3)親密圏/公共圏研究の枠組みによって個々のテーマに接近する研究発表を行う。(18回)</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業での発表(全員が最低1回は発表すること) 60% 毎回の授業での積極的発言 40%(無断欠席は減点する)</p>											
【教科書】											
使用しない											
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----											

社会学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各々のテーマに沿った研究発表を行うための準備をする。

(その他(オフィスアワー等))

研究内容についての相談などは個別に時間を決めて対応する。
発表者が多い場合は4時限にも授業を行うことがあるが、その時間に他の授業がある受講者は参加しなくてよい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(演習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 太郎丸 博			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会調査の実際とデータ分析(専門社会調査士科目H・I)									
【授業の概要・目的】											
<p>社会調査を実践的に企画・設計し、実施し、分析・集計をおこなうための実践的な知識と能力を習得する。また、数理統計学の基礎を踏まえながら、多変量解析に共通する計量モデルを用いた分析法を基本的に理解することを目指す。コンピュータを使ったデータの分析とその結果の解釈に重点を置く。</p>											
【到達目標】											
データ分析の応用力を身につけ、データ分析のためのテクニックの幅を広げる。											
【授業計画と内容】											
前期											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 調査方法論、調査倫理 2. 調査企画と設計(1) 3. 調査企画と設計(2) 4. 仮説構成 5. 尺度構成法 6. サンプルないし対象者・フィールドの選定(1) 7. サンプルないし対象者・フィールドの選定(2) 8. 調査票の作成(1) 9. 調査票の作成(2) 10. 実査 11. 調査データの整理(コーディング、データクリーニングなど)(1) 12. 調査データの整理(コーディング、データクリーニングなど)(2) 13. グラフ作成、仮説の検証(1) 14. グラフ作成、仮説の検証(2) 15. 報告書の作成 											
後期											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 回帰分析の復習 2. 非線形モデル(対数変換、二乗項の投入) 3. 交互作用効果の検討 4. モデルの選択(AIC, BIC, F検定) 5. モデルの診断(残差プロット、VIF) 6. 二項ロジスティック回帰分析(1) 7. 二項ロジスティック回帰分析(2) 8. 最尤推定法と尤度比検定(1) 9. 最尤推定法と尤度比検定(2) 10. 多項ロジスティック回帰分析(1) 											
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----											

社会学(演習)(2)

11. 多項ロジスティック回帰分析(2)
12. 順序ロジスティック回帰分析(1)
13. 順序ロジスティック回帰分析(2)
14. 分析結果のまとめ方とグラフの利用(1)
15. 分析結果のまとめ方とグラフの利用(2)

【履修要件】

すでに社会調査士の資格を取得しているか、同等の知識を持っていることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

予習重視。宿題がでる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学49

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(演習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 紀行			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会学的知の歴史社会学									
【授業の概要・目的】											
<p>社会学の歴史的展開をその社会的環境（社会構造の変動や大学制度の発達、ディシプリンの分化など）と関連づけて社会学的視点から研究した近年の代表的文献をいくつか取り上げて講読し、検討する。ブルデューの「界」理論をベースにしてフランス社会学の成立と展開を研究したJohan Heilbron, French Sociology (2015)のほか、Stephan Moebius、Stephen Turner、George Steinmetz、Andrew Abbott、Donald N. Levineらの著作、さらにはこれらに関連する知識社会学・知識人の社会学の文献（主に英語文献）を取り上げる予定である。</p> <p>またこれとあわせて受講者による修士論文・博士論文等の中間報告も適宜行う。</p> <p>なお、受講者に要約・報告してもらう文献は受講者の語学力に応じて割り当て、ドイツ語・フランス語の文献も可能であれば取り上げる。</p>											
【到達目標】											
<p>フランス、ドイツ、アメリカ等における社会学的伝統の形成を規定してきた社会的ならびに思想的な諸要因について理解し、日本の社会学についてもそれらと比較することによってその特徴を相対的に把握できるような視点を獲得する。</p> <p>また、社会学史・知識社会学・歴史社会学の基本的な研究手法を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>前期</p> <p>【第1回】イントロダクション</p> <p>【第2回～第15回】社会学史・知識社会学文献の講読。修士論文・博士論文等の中間報告を適宜行う。</p> <p>後期</p> <p>【第1回～第14回】社会学史・知識社会学文献の講読。修士論文・博士論文等の中間報告を適宜行う。</p> <p>【第15回】まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
報告レジюмеと授業中の発言によって評価する。											
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----											

社会学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受講者は毎回テキストの該当箇所を予習してくることを求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 落合 恵美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ケアを包摂する社会と社会科学									
【授業の概要・目的】											
<p>ケアとは人が生きることを支える活動である。社会を維持するためには人間を維持しなければならないのは自明だが、コロナ危機においても明らかになったように、「経済を回す」ことは課題とされても、(とりわけ家庭での)ケア負担が正面から論じられることはほとんどない。わたしたちは「ケア」と「生」を排除する社会に生きていと言わざるをえない。しかしこれはすべての人間社会において当たり前ではなく、「20世紀体制」という一時代の社会システムの構造的特徴であり、1970年代以降、転換が模索されている。</p> <p>本講義では、現代日本社会における子育ての困難とケアの不可視化という問題から出発し、「20世紀体制」の成立と変容を縦軸、日本とアジア、欧州、北米等との比較を横軸として、生とケアを包摂する社会への転換が世界各地でどのように模索されているかを検討する。さらに、こうした転換の指針となる理論的枠組みとして、世界の研究者が構築をめざしている「生とケアを包摂する社会科学」の基本的考え方を紹介する。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「20世紀体制」の特徴を学び、それが歴史的に一時代のものでしかないことを理解する。 2. 人口転換、福祉レジーム、ケアの家族化/脱家族化など、この問題にアプローチするために必要な概念や理論的枠組みを学ぶ。 3. 世界の諸地域の国々と比較して、日本の現状にはどのような問題があるのかを知り、そこから脱却するための展望をもつ。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 日本の子育て困難と視えないケア 2 アジアの子育てネットワーク(1) 3 アジアの子育てネットワーク(2) 4 アジアの高齢者 5 グローバル化した家族 6 アジア女性は主婦になるか 7 社会的ネットワークから福祉レジームへ 8 人口転換と近代 9 社会的再生産の20世紀体制 ケアの不可視化 10 20世紀体制からの転換 人口・労働・ジェンダー 11 ケアの家族化/脱家族化 12 分岐する世界 欧州の道・北米の道 13 分岐する世界 日本の道・他のアジア諸社会の道 14 親密圏と公共圏の再編成 生とケアを包摂する社会へ 15 質疑と討論 											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートにより評価する。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

落合恵美子 『21世紀家族へ 家族の戦後体制の見かた・超え方(第4版)』(有斐閣, 2019年)
落合恵美子編 『親密圏と公共圏の再編成 アジア近代からの問い』(京都大学学術出版会, 2013年)

【授業外学修(予習・復習)等】

参考書や授業中に指示する参考文献を読む。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学51

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(演習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 Stephane Heim			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		質的調査に基づく研究									
【授業の概要・目的】											
この授業は、社会・文化をおもに質的に調査し、分析し、記述することに関わる根源的な問題について考察することを目的とする。受講生の報告と討論を中心とする形式で実施される。											
【到達目標】											
質的調査にもとづいて書かれた研究や、質的調査に関する諸問題に関する理論的知見を批判的に検討し、自身の研究に関する視座を獲得すること。											
【授業計画と内容】											
(前期)											
第1回 イン트로ダクション 自己紹介、講読文献の決定、発表担当者の決定											
第2回～第6回 文献講読 質的調査にもとづいて書かれた研究、質的調査に関する諸問題について書かれた文献を輪読し、議論を行う。											
第7回～第14回 研究報告 投稿論文、修士論文、博士論文のドラフト報告とそれに関する検討を行う。											
第15回 まとめ											
(後期)											
第1回 イン트로ダクション 講読文献の決定、発表担当者の決定											
第2回～第6回 文献講読 質的調査にもとづいて書かれた研究、質的調査に関する諸問題について書かれた文献を輪読し、議論を行う。											
第7回～第14回 研究報告 投稿論文、修士論文、博士論文のドラフト報告とそれに関する検討を行う。											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
報告と討議への参加によって評価する											
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----											

社会学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示をする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学52

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		社会学(演習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 先端総合学術研究科 教授 岸 政彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		質的調査の研究									
[授業の概要・目的]											
<p>「質的調査」とは何か、質的調査を通じて論文を書くことはどのようにして可能か、質的調査はどのように捉えられ、どのように批判され、それに対してどのように応答されてきたのか。あるいはより実践的に、これまで質的調査を通じた論文はどのようにして書かれてきたのか、そしてこれからどのように書いていくことが可能なのか。</p> <p>主にこれらの点について、国内外のトップジャーナルに掲載された論文の分析と批評を通じて、参加者全員によるディスカッションをおこなう。あわせて、もし質的調査をおこなっている参加者がいれば、その方ご自身の研究についても報告してもらおう。各回の具体的な構成とスケジュールについては参加者と相談して決めたい。</p>											
[到達目標]											
質的調査とは何か、質的調査を研究するとはどのようなことかについて専門的な知識と実践的な方法について学ぶ。											
[授業計画と内容]											
<p>1 導入 質的調査は何をするのか</p> <p>2 質的調査の論文のレビューと分析、批判(1)</p> <p>3 質的調査の論文のレビューと分析、批判(2)</p> <p>4 質的調査の論文のレビューと分析、批判(3)</p> <p>5 質的調査の論文のレビューと分析、批判(4)</p> <p>6 質的調査の論文のレビューと分析、批判(5)</p> <p>7 質的調査の論文のレビューと分析、批判(6)</p> <p>8 質的調査の論文のレビューと分析、批判(7)</p> <p>9 参加者による調査報告とディスカッション(1)</p> <p>10 参加者による調査報告とディスカッション(2)</p> <p>11 参加者による調査報告とディスカッション(3)</p> <p>12 参加者による調査報告とディスカッション(4)</p> <p>13 まとめ(1) 質的調査は何をしていくのか</p> <p>14 まとめ(2) 何をすれば質的調査になるのか</p> <p>15 まとめ(3) 質的調査の研究の研究</p>											
[履修要件]											
特になし											
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----											

社会学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート50%、平常点50%

[教科書]

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』（2016）
ISBN:978-4-641-15037-9

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書、および授業中に紹介する文献は必ず読んでください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学53

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 水野 一晴			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		世界の自然環境と人々の生活や社会 1									
【授業の概要・目的】											
世界の各地域の気候環境は多様である。その多様な自然環境の中で人々は独自の社会や文化を生み出してきた。本講では、世界のいくつかの地域を取り上げ、その場所の気候、地形、植生、土壌、水文環境などの自然環境を説明し、その自然環境の中で歴史的に人々はどのように定住していったのか、あるいは人々はその自然をどのように利用しながら生活を営んでいったのか、自然とどのように向き合っているのかなどの点から検討する。また、地球温暖化などの長期的あるいは異常気象などの短期的な気候変化が、自然や人間活動にどのような影響を及ぼしているかについても議論する。											
【到達目標】											
世界各地の気候、地形、植生、土壌といった自然環境要因の複合的作用およびその変化について理解する。自然環境が人間活動とどのように関わっているかを考察し、その一方の変化が相互作用によって大きく両者に関わっていくことを理解する。世界の地域ごとにその自然環境のもとで多様な社会や文化が生み出されていることを理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ポリネシアの自然環境と社会・文化 [1週] 2．アフリカの歴史的環境変遷 [1週] 3．日本アルプスと大雪山の植生の立地環境とその30年間の変化 [2週] 4．アフリカの自然と民族 [2週] 5．ケニア山とキリマンジャロの気候変動と水環境・植生の変化 [4週] 6．ナミブ砂漠の自然や植物・動物と人間活動 [3週] 7．アンデスの自然と人間活動 [1週] 6．フィードバック [1週] 											
【履修要件】											
<p>高校の時に使用していた地図帳（帝国書院、二宮書店など）を授業時に持参すること（持っていない人は購入してください）。</p> <p>高校で地理を履修していなくても十分理解できます。</p> <p>特別な許可がない限り、授業時でのパソコン、携帯電話、スマホの使用を禁止する（ノートは手書きで取ること）。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（80％）と小テスト（20％）による評価・・・毎回配るコメント・質問用紙や授業内での発言、小テストなど											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

水野一晴 『気候変動で読む地球史 - 限界地帯の自然と植生から - 』 (NHKブックス、2016年)

ISBN:978-4-14-091240-9

水野一晴 『世界がわかる地理学入門 - 気候・地形・動植物と人間生活』 (ちくま新書、2018年)

ISBN::978-4-480-07125-5

水野一晴 『世界と日本の地理の謎を解く』 (PHP新書、2021年) ISBN:978-4-569-84948-5

水野一晴 『自然のしくみがわかる地理学入門』 (角川ソフィア文庫、2021年) ISBN:978-4-04-400647-1

[授業外学修(予習・復習)等]

授業が理解できたかどうか把握し、理解できなかった部分については次回授業で質問してください。

(その他(オフィスアワー等))

事前にメールで問い合わせてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学54

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 水野 一晴			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		世界の自然環境と人々の生活や社会 2									
【授業の概要・目的】											
世界の各地域の気候環境は多様である。その多様な自然環境の中で人々は独自の社会や文化を生み出してきた。本講では、世界のいくつかの地域を取り上げ、その場所の気候、地形、植生、土壌、水文環境などの自然環境を説明し、その自然環境の中で歴史的に人々はどのように定住していったのか、あるいは人々はその自然をどのように利用しながら生活を営んでいったのか、自然とどのように向き合っているのかなどの点から検討する。また、地球温暖化などの長期的あるいは異常気象などの短期的な気候変化が、自然や人間活動にどのような影響を及ぼしているかについても議論する。											
【到達目標】											
インド、ヒマラヤ地域の多様な自然や社会、宗教、文化、生業について、その歴史的変遷から理解する。ヒマラヤの自然環境の中で地域社会が歴史的にどのように成立し、現在の人間活動が営まれているかについて考察し、世界の多様な自然環境の中で営まれる人間活動について、社会や文化、生業、宗教などの観点から検討する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
1. インド、ヒマラヤ地域（アルナーチャル・プラデーシュ）の自然と民族 [2週] 2. チベットからアルナーチャルへの王の移住とクランの成立 [3週] 3. チベット仏教院による税の徴収とゾン（城砦）の成立 [2週] 3. チベット仏教、ポン教、精霊信仰と地域社会 [3週] 4. 森林分布と森林管理 [1週] 5. ヤク放牧と牧畜民社会 [1週] 6. 農地の分布と農耕民社会 [1週] 7. 地域社会と文化 [1週] 8. フィードバック [1週]											
【履修要件】											
高校の時に使用していた地図帳（帝国書院、二宮書店など）を授業時に持参すること（持っていない人は購入してください）。 高校で地理を履修していなくても十分理解できます。 特別な許可がない限り、授業時でのパソコン、携帯電話、スマホの使用を禁止する（ノートは手書きで取ること）。											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（80%）と小テスト（20%）による評価・・・毎回配るコメント・質問用紙や授業内での発言、小テストなど

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

水野一晴 『神秘の大地、アルナチャル - アッサム・ヒマラヤの自然とチベット人の社会 - 』（昭和堂、2012年）ISBN:978-4-8122-1173-1

Mizuno, K. & Tenpa, L. 『Himalayan Nature and Tibetan Buddhist Culture in Arunachal Pradesh, India』（Springer, 2015）ISBN:978-4-431-55491-2

水野一晴 『世界がわかる地理学入門 - 気候・地形・動植物と人間生活』（ちくま新書、2018年）ISBN:978-4-480-07125-5

[授業外学修（予習・復習）等]

授業が理解できたかどうか把握し、理解できなかった部分については次回授業で質問してください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーについては事前に問い合わせてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 米家 泰作			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		山と森の歴史地理学									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、環境の利用・改変・管理・認識の視点から、日本の山村と森林の歴史地理を検討する。日本の山村は現在、過疎化や限界集落、廃村といった大きな問題に直面しているが、かつては多くの人々が山や森の動植物に依拠して暮らしていた。山村における人と環境との関係史を、歴史地理学あるいは環境史的な観点から捉えるならば、森林を改変しながらも、それを巧みに利用・管理する暮らしのあり方が浮かび上がってくる。本講義では、地理学・歴史学・民俗学の議論を紹介しながら、山村と森林の歴史地理をたどることで、人と環境の関係について様々な視点に触れるとともに、現在の山村や森林のあり方について、理解を深める機会を提供したい。</p>											
【到達目標】											
<p>現在様々な問題を抱える山村地域に関して、その歴史地理的背景を理解するとともに、人間と環境の関係史を広い視野から動的に捉える能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．山と森の歴史地理 <ol style="list-style-type: none"> 第1回 人と環境の関係史 第2回 『秋山記行』の世界 2．森林に依拠した生業 <ol style="list-style-type: none"> 第3回 堅果食の系譜 第4回 狩猟とその周縁化 第5回 焼畑と森林管理 第6回 木地師と木工の系譜 3．山をめぐる自然観 <ol style="list-style-type: none"> 第7回 山の神とは誰か 第8回 修験道の自然観 4．森林植生の人為的改変 <ol style="list-style-type: none"> 第9回 「禿山」と人為的草原 第10回 育成林業の登場 第11回 科学的林業と植生管理 5．山と森の近代 <ol style="list-style-type: none"> 第12回 風景としての山岳 第13回 登山とナショナリズム 第14回 内なる異文化 第15回 フィードバック 											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（30％）と学期末のレポート（70％）により評価する。前者は授業回数ごとに求めるリアクションペーパーにもとづく。後者は授業の到達目標の達成度に基づき評価する。いずれもPandAを通じて行う。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

米家泰作 『森と火の環境史』（思文閣出版）ISBN:9784784219735

米家泰作 『中・近世山村の景観と構造』（校倉書房）ISBN:9784751733508

白水智 『中近世山村の生業と社会』（吉川弘文館）ISBN:9784642029490

池谷和信・白水智 『山と森の環境史』（文一総合出版）ISBN:9784829911999

（関連URL）

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>(講師の研究業績など（京都大学教育研究活動データベース）)

<https://orcid.org/0000-0002-3391-5069>(ORCID（Open Researcher and Contributor ID）)

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku>(講師のフェイスブック)

<https://researchmap.jp/tkomeie/>(リサーチマップ（科学技術振興機構）)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介する参考文献を含めて、関連する論文や文献に積極的に触れ、問題関心を深めてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーを設定している。オンラインでの問い合わせは、メールあるいはPandAのフォーラムで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学56

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 米家 泰作			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代日本と地理的知									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、近代の日本において地理的な表象や言説が果たしてきた政治的・経済的・社会的な役割を、批判的に検討する。近年の歴史・文化地理学では、地理的な表象や言説に関する議論が盛んに行われている。その動向を踏まえて、地図・土地調査・旅行記・地誌・学術調査・史蹟景観をめぐる地理的知の諸相と、その受容や理解の具体例を分析する。その際、本講義では特に朝鮮半島に着目するが、内地や他の植民地にも注意を払う。</p>											
【到達目標】											
<p>地理的な知の役割を歴史的に俯瞰し、その意義を批判的に捉える能力を養うとともに、様々な歴史地理的資料に関する基本的事項を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1．地理的知の近代 第1回 歴史地理学と言語論的転回 第2回 オリエンタリズムと心象地理 第3回 歴史地理学と帝国主義</p> <p>2．朝鮮像の系譜 第4回 近世日本の朝鮮像 第5回 明治日本の朝鮮像と地誌編纂</p> <p>3．植民地のマッピングと空間把握 第6回 朝鮮の測量と地図化 第7回 森林資源の地図化</p> <p>4．学知と植民地 第8回 学知の動員と焼畑の行方 第9回 「知的征服」とその諸相</p> <p>5．史蹟とその経験 第10回 史蹟とコロニアルツーリズム 第11回 史蹟の保存と経験 第12回 征服神話と植民地 第13回 帝国縁辺部へのツーリズム</p> <p>6．帝国日本の心象地理 第14回 「近代」概念の空間的含意 第15回 フィードバック</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点(30%)と学期末のレポート(70%)により評価する。前者は毎回の授業に対するリアクションペーパーにもとづく。後者は授業の到達目標の達成度に基づき評価する。いずれもPandAを通じて行う。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

J・モリッシーほか(上杉和央監訳)『近現代の空間を読み解く』(古今書院)ISBN:4772231848

B・グレアム, C・ナッシュ『モダニティの歴史地理』(古今書院)ISBN:4772214704

D・リヴィングストン『科学の地理学: 場所が問題になるとき』(法政大学出版局)ISBN:4588371207

J. Agnew & D. N. Livingstone『The SAGE Handbook of Geographical Knowledge』(SAGE Publications)ISBN:1412910811

米家泰作『森と火の環境史』(思文閣出版)ISBN:9784784219735

(関連URL)

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>(講師の業績など(京都大学教育研究活動データベース))

<https://researchmap.jp/tkomeie/>(リサーチマップ(科学技術振興機構))

<https://orcid.org/0000-0002-3391-5069>(ORCID(Open Researcher and Contributor ID))

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku/>(講師のフェイスブック)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献を含めて、関連する論文や文献に積極的に触れ、問題関心を深めてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーを設定している。オンラインでの問い合わせは、メールあるいはPandAのフォーラムで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		防災研究所 准教授 松四 雄騎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		湿潤変動帯の自然地理学とその応用としての斜面減災論									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、自然地理学の応用としての自然災害（特に斜面災害）の被害軽減（減災）に関する方法論を学び、その実現に向けた基礎データを取得するための野外調査法および室内実験法を実習する。</p> <p>山地や丘陵地が国土の大半を占める日本列島では、豪雨や地震によってしばしば斜面から土砂が流出し、下流域に被害を及ぼす。土砂災害による人的・物的被害は、高度経済成長期以降の砂防・治山事業の拡充による人工構造物の配備により、それ以前と比べて格段に減少してきたが、近年、極端な豪雨の頻度増大により、再び増加しつつある。日本人はそもそも、居住域に隣接する傾斜地（里山）で得られる燃料や湧水といった資源を利用し、その恩恵を受けてきたが、それと同時に斜面の崩壊や地すべり、土石流といった斜面災害の脅威にもさらされてきた。地域に根差した住民が斜面と共生していた時代に培われていた減災のための知恵は、傾斜地での道路敷設や宅地開発といった自然環境の改変行為を可能にした現代的な土木技術の発達と、それによる山際居住区の拡大と新規住民の移入とともに、失われつつある。居住域周辺斜面からの土砂流出による被害を軽減するためには、空間的に飽和し、コスト的にも限界に達しつつあるハード対策だけでなく、住民自力での警戒・避難を促すソフト対策の高度化が不可欠である。そのためには地域の地理環境の成り立ちを深く理解し、それを土台に世代を超えて持続可能な減災方策を備えた地域社会の形成をめざす必要がある。これはまさに自然地理学の応用問題であるといえよう。本授業では、斜面災害の地質・地形的背景（素因）や、降水浸透あるいは地震動といった引き金（誘因）が、なぜ・どのようにして土砂流出を引き起こすのかについて、野外実習と室内実験を通して、自ら地盤構成材料に触れ、その物性を定量的に把握し、データの解析を行うことで体験的に学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>実習形式の授業を通して、温暖湿潤帯における自然地理環境とそこで起こる地球表層プロセスを概観し、山地の斜面をつくる地盤材料の定性的な観察法、およびその水理学・土質力学的性質の定量化法を学び、斜面減災を実現するための自然地理学的方法論について考察できる力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>夏季の集中講義とし、野外および室内での実習形式での授業を行う。</p> <p>授業のスケジュールおよびその中で取り上げるテーマとトピックスは以下の通り。</p> <p>9月6日（火）森林斜面での野外実習（京都近郊丘陵地） 9月7日（水）実験室での土質試験（宇治キャンパス） 9月8日（木）データ解析およびゼミ（宇治キャンパス）</p> <p>1日目: 野外巡検 京都近郊の丘陵地を対象に、地盤の構成物とその性質および陸域水循環に伴う地形変化過程について概説する。また、過去に発生した斜面崩壊跡地を観察し、森林土壌の断面を作成して、土層試料の採集を行う。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

2日目: 室内実験 + データ解析

採集した試料を用いて、宇治キャンパスにおいて水理・力学的な試験を行う。

3日目: 室内実験 + データ解析 + ゼミ

宇治キャンパスにおいて引き続き実験を行うとともに、得られたデータを用いて、雨の浸透や斜面の安定に関する計算を行い、斜面ハザード評価の方法論について討論する。

テーマとトピックス

- (1) 自然地理学における野外観察の基礎と方法
- (2) フィールドサイエンスにおける理論・法則・モデルの役割
- (3) 人間社会を取り巻く自然環境の成り立ち
- (4) 陸域水循環の概要と流域生態系の恒常性
- (5) 森林水文学の基礎と山地流域における降雨流出過程
- (6) 斜面の地形変化と土砂災害の発生メカニズム
- (7) 地理的な防災・減災の方法論
- (8) 自然地理学における実験法とデータ分析法の基礎
- (9) 地盤構成材料の水理・力学特性とその意味
- (10) 地理情報システムと地形計測
- (11) 地図解析および実験・計測における精度と確度
- (12) データの整理と統計処理の基礎
- (13) 流域表層現象のモデル化と計算法
- (14) 製図法とアカデミックライティングの基礎
- (15) 総括とフィードバック

授業を通じて、野外観察の方法、実験による定量データの取得方法、自然現象のモデル化について習得するとともにフィールドノートや実験ノートの記載方法、データの整理方法、製図や記述の方法等のアカデミックライティングについて具体的に指導する。

フィードバックについては、実習終了後に必要に応じて、教員オフィスあるいはEメールにて質問に答えるほか、レポートに講評を記入することも含む。

【履修要件】

学生教育研究災害傷害保険等の傷害保険に加入していること。

【成績評価の方法・観点】

平常点(50%)およびレポート(50%)の評価による。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

地理学(特殊講義)(3)へ続く

地理学(特殊講義)(3)

関連する論文等を授業の中で配布・紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

3日間の授業期間中にはデータ解析や討論準備を課題として出すので、ホームワークとしてこなすこと。

（その他（オフィスアワー等））

第一日目は京都近郊の丘陵地でのフィールドワークとなるため、動きやすい靴と服装に手袋や帽子を着用の上、虫よけや雨具、筆記用具・野帳・カメラといった個人装備を揃えて参加すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		成蹊大学 経済学部 教授 財城 真寿美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		気象・気候でよみとく地球環境									
[授業の概要・目的]											
<p>本講義では、地球大気で生じる現象について、様々な時空間スケールで解説をする。まず、大気で生じる現象について、大気の構造や運動、エネルギー収支などについて気象学の基礎的な事項を学ぶ。次に、気候学的な視点から、大気現象の空間分布、時間変化の特徴やそのメカニズム等について解説する。気候変動については、様々な代替指標による気候復元研究の成果や、地球温暖化問題について詳しく掘り下げる。くわえて、身近な気候環境を理解する目的で、簡易気象観測を実施しデータ分析の演習を行う予定である。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・地球大気で生じる現象について、そのメカニズムを理解できる ・地球大気で生じる様々な現象について、その時空間的特性を理解できる ・地球大気の様々な現象における現代的課題について理解できる ・地球大気で生じている様々な課題に対し、地理学はどのように向き合うべきなのかについて、主体的に考え、発想することができる 											
[授業計画と内容]											
<p>[第1回]イントロダクション (講義) 授業のねらいや進め方について概説する</p> <p>[第2-4回]地球大気の構造・運動・エネルギー収支 日々の天気予報で耳にする気圧・風・気温について、高校物理の関連事項を復習しながら、気象学の基礎的知識を習得する。習熟度を測るために、最後に小テストを実施する。</p> <p>[第5-8回]様々な時空間スケールで俯瞰する地球の気候 世界の気候分布、大気海洋相互作用、日本の気候の特徴、ヒートアイランド現象などについて、多くの文献を取り上げて解説する。必要に応じて、気象データの分析演習を行う。</p> <p>[第9-12回]気候変動 気候復元の手法、気候変動の要因、氷期 - 間氷期サイクル、歴史時代の気候変動、地球温暖化について解説する。</p> <p>[第13-15回]身近な気候環境調査 簡易温湿度計を使用して、大学構内（もしくは近隣地域）で気温分布の観測を行う。観測実施前に観測計画をたて、実施後に回収データの補正や分析、地図化などを行う。</p> <p>上記の計画は、学生の興味・関心や実習の内容により変更する可能性がある。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（毎回のコメント，ディスカッションへの参加，小テスト，実習に関する小レポート等）により総合的に評価する．

[教科書]

使用しない

参考資料は配布，またはウェブ上にて共有する予定である．

[参考書等]

（参考書）

白木正規 『新 百万人の天気教室』（成山堂書店）ISBN:9784425513512

水野一晴 『自然のしくみがわかる地理学入門』（KADOKAWA）ISBN:9784044006471

日下博幸 『学んでみると気候学はおもしろい』（ベレ出版）ISBN:9784860643621

多田隆治 『気候変動を理学する』（みすず書房）ISBN:9784622086727

[授業外学修（予習・復習）等]

集中講義であるため各回の情報を各自で復習し，翌日の授業に応用することが望ましい．

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		奈良教育大学 社会科教育講座 准教授 河本 大地			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地域多様性を活かした未来づくり									
【授業の概要・目的】											
<p>SDGs（持続可能な開発目標）が社会的に大きく取り上げられています。あなたは、地理学の見方・考え方や知見を活かしてどのような未来を形づくっていきたいですか？ それを考え、議論するのが、この授業です。</p> <p>自然の中での人間のあり方を「地域」を軸に探るべく、地域多様性という考え方と、現代の農村地域をめぐる状況に焦点を当てます。授業中の講義内容と、教科書の内容、そして互いの経験を共有しながら、地域の価値やわくわくする社会の在り方を議論し発信しましょう。</p>											
【到達目標】											
地域に関する未来志向の表現者としての力量を伸ばす。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：オリエンテーション、SDGsをどうとらえるか 第2回：地域多様性という発想 第3回：地域多様性×グリーンツーリズム 第4回：フィールドワーク 第5回：地域多様性×文化景観 第6回：地域多様性×食と農 第7回：地域多様性×出会い 第8回：地域多様性×エコツーリズム 第9回：フィールドワーク 第10回：地域多様性×生物多様性 第11回：地域多様性×ジオ 第12回：地域多様性×居住 第13回：地域多様性×自治 第14回：地域多様性×教育・学習 第15回：地域多様性×あなたの未来</p> <p>対面授業（場合によっては一部をリアルタイム型のオンライン授業にします）と、地域を五感で理解するフィールドワークを組み合わせ実施します。 各回のディスカッション等のまとめを、回ごとに担当者を決めて作成し、次の回で発表してもらいます。その際にフィードバックを行います。 フィールドワークは、基本的に休日に実施します。行先や日時・期間・回数、テーマ等については、みなさんの意見や感染症の状況などをかんがみて検討します。集団でのフィールドワークの実施が困難になった場合は、各自で実施してもらい、授業時間に内容の共有とステップアップを図ります。 受講者の興味・関心等により、内容や進め方を若干変更することがあります。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績評価はポイント制です。
...最終試験は行いません。そのぶん、各回の事後課題の質と量を重視します(60%)。また、各回のディスカッション等のまとめを、回ごとに担当者を決めて作成し、次の回で発表してもらいます(40%)。
授業を進めるうえでの重要な役割を担ったり、授業内容に関連するイベント等に参加してその成果を報告したりすると、加点されます。

【教科書】

岡橋秀典 『現代農村の地理学』(古今書院, 2020) ISBN:9784772231947

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

ほぼ毎回、事前に教科書の中の指定する部分(1~3章分)を読んできてもらいます。
各回の事後には、授業時のディスカッションを通して自分が考えたことを記してもらいます。

(その他(オフィスアワー等))

質問・連絡等はいつでも受け付けます。メール等を気軽に送ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学60

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		奈良教育大学 社会科教育講座 准教授 河本 大地			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		農村地域研究実践									
【授業の概要・目的】											
特定の農村地域（多自然地域、農山漁村地域、中山間地域等）を対象にフィールドワークや文献調査を実施し、成果を数本の共著論文にまとめます。											
【到達目標】											
一連の活動を通じて、農村地域を対象とした事例研究の手法を身につけましょう。											
【授業計画と内容】											
第1回： オリエンテーション 第2回： 研究のテーマ・方法・枠組みの検討 第3回： 関連する研究の紹介と議論 第4回： フィールドワークの準備 第5回： フィールドワーク（現地調査） 第6回： フィールドワーク（現地調査） 第7回： フィールドワーク（現地調査） 第8回： フィールドワークの振り返り 第9回： 調査結果の分析 第10回： 調査結果のとりまとめ 第11回： 地図作成と空間分析 第12回： ここまでの活動へのフィードバック 第13回： 補足調査 第14回： 論文完成 第15回： まとめと振り返り											
【履修要件】											
前期開講の地理学(特殊講義)を受講しておくことが望ましい。後期のみ受講の場合はメール等で相談すること。											
【成績評価の方法・観点】											
成績評価はポイント制。最終試験は行いません。各回の課題（40％）に、成果物である論文への貢献度を組み合わせます（60％）。 授業を進めるうえでの重要な役割を担ったり、授業内容に関連するイベント等に参加してその成果を報告したりすると、加点されます。											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

岡橋秀典 『現代農村の地理学』（古今書院，2020）ISBN:9784772231947（前期と同じです。）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

段階を追って学べるようほぼ毎回課題を出しますので、しっかりと取り組んでください。

（その他（オフィスアワー等））

質問・連絡等はいつでも受け付けます。メールやメッセージを気軽に送ってください。
フィールドワークの行先や日時・期間・回数、テーマ等については、前期の授業時に出された意見や感染症の状況などをかんがみて初回授業時に検討します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学61

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		富山大学学術研究部人文科学系 鈴木 晃志郎 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地理学特殊講義									
【授業の概要・目的】											
<p>大学における講義で提供されるのは、各々の学識経験者を通じた先人の預言であることが多い。しかし、往々にしてその預言者たちは、成績評価を下すという儀礼を繰り返すことによって、あたかもその研究領域の神であるかのように振る舞う行為を内在化し、(必ずしも優秀とは限らない)預言者にすぎぬ自身の姿を、シラバスや授業過程の中に隠匿しようとする。</p> <p>本講義は、特殊講義と銘打たれている。この科目の特殊性を鑑み、私は浅学菲才の一学生が研究者・教育者となっていく過程を、聴講者と疑似的に共有することを試みる。何が預言者自身を地理学へと向かわせたのか、学問することの面白さや厳しさとは何かを、できる限り一人称に近い形の、生きた学びとして提供したい。その試みを通じて、結果的に地理学を学問する行為の面白さが伝わることを、本講義の狙いとしている。</p> <p>今、あなたが獲得したいのは、先人たちによって磨かれた知識体系としての地理学だろうか。もしそうなら、あなたは受講すべきは概論であってこの講義ではない。しかしあなたが、自身も地理学を学び続けながら、次の世代にその学びを伝えることを許された一個人の経験を通して、研究する行為をより等身大に近い形で追体験したいなら、あなたは本講義の受講者であり、大いに歓迎する。</p> <p>講義提供者の専門領域は行動地理学(認知地図研究)、社会地理学(景観紛争)、文化地理学(怪異の地理学)、背景知識としての観光学に跨る。聴講を通じて、特にこれらの分野について、より深い理解が得られるであろう。</p>											
【到達目標】											
<p>講義提供者の専門分野(景観紛争や観光の地理学など)を中心とする人文地理学の基礎的な考え方や見方を学ぶとともに、その知見を活用して「学問する」知的職人としての態度を身につけることをめざす。なお、講義提供者は人文地理学者であるため、自然地理学の内容は(ほとんど)提供されない。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、タイトルは変更可能性があり、講義の進展状況に対応して順序やテーマ内の回数を変えることがある。</p> <p>I. 研究で身を立てる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：人文地理学とは何か 2. 地理学と空間認知I 3. 地理学と空間認知II 4. 生物学者との対話 <p>II. 研究で社会と向き合う</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 世界遺産と文化的景観 6. 景観紛争のポリティクス 7. 住民意識の空間的次元 											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

III. エンパワーメントの試み

8. 演習：紛争解決に参画してみよう
9. 演習：紛争解決に参画してみよう
10. 地理学者としてのADR

IV. 「好き」を研究にする

11. 音楽における近代化
12. 近代音楽におけるリージョナリズム
13. クリエイティブ・クラスとユダヤ人

V. 地理学の未来を育て、未来を考える

14. 怪異の地理学
15. 研究するまなざしの獲得

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業内の小課題（30点）、レポート（70点）により評価する。

【教科書】

使用しない
使用しない
資料を配布します。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する
・エンパワーメントの研究は演習を行います。新型コロナの感染拡大状況が予断を許さないため、場合によっては差し替える可能性があります。

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、簡単な課題を出すので、提出してください。

（その他（オフィスアワー等））

京都大学に双方向型のオンライン授業支援システム（本学ではMoodleと呼んでいる）があるのか、現時点では承知していませんが、あるようならそれを介してお気軽にお声掛けください。無い場合でも、メールや授業後の声掛けには応じますのでご遠慮なく。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学62

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		近畿大学 文芸学部 准教授 村田 陽平			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3,4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ジェンダー地理学の再構築：空間の男性学									
[授業の概要・目的]											
本授業では、ジェンダー地理学の再構築を論じる。とくに男性学の視点を導入した空間の地理学的分析を学ぶ。											
[到達目標]											
1. 人文社会科学におけるジェンダーに注目した学術的視座を理解できる。 2. 上記の1を用いて空間のジェンダーを論理的に考察できる。											
[授業計画と内容]											
1. 授業の概要と導入 2～5. セクシュアルマイノリティと空間 6～8. 男性政治家と空間 9～11. 男性建築家と空間 12～15. 男性と空間理論 授業の進度に応じて、授業内容と開講回のバランスを調整することがある。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
授業内でのディスカッションで評価する。											
[教科書]											
村田陽平 『空間の男性学：ジェンダー地理学の再構築』（京都大学学術出版会，2009）ISBN: 9784876987580											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業後に教科書を読んで復習する。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学63

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		近畿大学 文芸学部 准教授 村田 陽平			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3,4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		健康の地理学									
[授業の概要・目的]											
本授業では、健康の地理学、とくに受動喫煙の環境学の視座と具体的な研究の実践について論じる。新しい分野の健康の地理学の可能性を検討する。											
[到達目標]											
1. 健康の地理学における「現代の視座と実践」を理解する。											
[授業計画と内容]											
1. 授業の概要と導入 2～5. 世界の受動喫煙対策 6～9. 日本の受動喫煙対策 10～15. タバコ産業の戦略と健康の地理学 授業の進度に応じて、授業内容と開講回のバランスを調整することがある。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
授業内でのディスカッション											
[教科書]											
村田陽平 『受動喫煙の環境学：健康とタバコ社会のゆくえ』（世界思想社、2012年）ISBN: 9784790715740											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業後に教科書を読んで復習する。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学64

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 杉江 あい			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地誌の歴史と現代的意義									
【授業の概要・目的】											
この授業は地誌の歴史的背景と学術的展開を学び、地誌の現代的意義と課題について検討する。地誌は歴史的に権力や軍事行動と密接に結びついてきたことや、記述者の位置性をめぐって、批判にさらされてきた。現在、学術的に地誌は衰退したと言われる一方で、地理教育においては依然として地誌学習が重要な役割を持っている。この授業では、こうした地誌の歴史的背景と学術的、社会的な位置づけを踏まえた上で、地誌が地域理解および地理教育において果たしうる役割の可能性と課題を、出席者1人1人が主体的に考えることができるようになることをねらいとする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・地誌の歴史と学術的な展開、社会的な位置づけについて理解する。 ・地誌が地域理解および地理教育において果たしうる役割について考察できる。 											
【授業計画と内容】											
第1回目 オリエンテーション 第2回目 古代・中世の地誌 第3回目 植民地支配と地誌 第4回目 近代における地理学の成立と地誌 第5回目 地政学と兵要地誌 第6回目 戦後における地誌の衰退 第7回目 英語圏の「新しい地誌」 第8回目 非英語圏の「新しい地誌」 第9回目 地理的表象の危機と地誌 第10回目 映像人類学からの示唆 第11回目 地理教育と地誌(1) 地誌学習の変遷 第12回目 地理教育と地誌(2) 教科書記述の問題 第13回目 世界認識ツールとしての地誌 第14回目 地誌の学問的・社会的な位置づけ 第15回目 まとめとフィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
第2回目～14回目の授業後に提出するコメントシート(4点×13回=52点)、期末レポート(48点)で評価する。 ・コメントシートと期末レポートは、文章のわかりやすさ、構成力、論理的な展開、説得力、定められた形式にしたがっているかという点を考慮して評価する。											
----- 地理学(特殊講義) (2)へ続く -----											

地理学(特殊講義) (2)

- ・必ずしも上記の点が十分でなくても、授業内容を踏まえた記述や多くの文献・資料の参照・引用をする等の努力が認められる場合も高く評価する。
- ・ただし、すべてまたはほとんどの文章が文献やウェブサイトからそのまま引用しただけの場合は低く評価する。
- ・期末レポートで出典を明記せず盗用・剽窃を行った場合は単位を認めない。

[教科書]

授業でレジュメを配布する。

[参考書等]

(参考書)

熊谷圭知・西川大二郎編 『第三世界を描く地誌 ローカルからグローバルへ』 (古今書院、2000) ISBN:978-4772250498

熊谷圭知 『パプアニューギニアの「場所」の物語 動態地誌とフィールドワーク』 (九州大学出版会、2019) ISBN:978-4798502489

クリフォード、J.・マーカス、J. 編 『文化を書く』 (1996、紀伊國屋書店) ISBN:978-4314005869

森川 洋 『人文地理学の発展 英語圏とドイツ語圏との比較研究』 (2004、古今書院) ISBN:978-4772240536

[授業外学修(予習・復習)等]

受講生は授業(金曜4限)後の次の日曜までにコメントシートをまとめてワードまたはPDFファイルで授業担当者に提出すること。提出方法については第1回目の授業で説明する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは火曜15半~17時半。必ず事前にメールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学65

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 杉江 あい			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		バングラデシュの動態地誌：国家・開発・経済									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、地域間および特定の要素間の関係に着目したバングラデシュの動態地誌を通じて、地誌を含む地理的知の政治的・社会的影響と、地誌を通じた地域理解、世界認識の可能性と課題について検討することを目的とする。</p> <p>本授業は三部構成になっており、それぞれ下記のテーマを扱う。</p> <p>第一部 英国植民地統治に伴って実施された地誌編纂が植民地期 / 独立後の国家および社会に及ぼした影響</p> <p>第二部 冷戦体制下において「低開発」の「第三世界」とされたバングラデシュにおいて行われた開発</p> <p>第三部 安価な労働力の供給地として近年、注目を浴びるようになったバングラデシュと日本との関わり</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・バングラデシュの国家の成り立ちや開発、経済成長の動向と、これらにまつわる諸問題について理解する。 ・地誌による地域理解、世界認識が孕む問題と可能性について考察することができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回目 オリエンテーション</p> <p>第一部 科学の「実験場」としてのインド</p> <p>第2回目 分割統治と地誌</p> <p>第3回目 国民国家と地理的知</p> <p>第4回目 ポストコロニアルの苦境(1) 宗教間対立</p> <p>第5回目 ポストコロニアルの苦境(2) 難民</p> <p>第6回目 ポストコロニアルの苦境(3) カースト差別</p> <p>第二部 援助の「実験場」としてのバングラデシュ</p> <p>第7回目 冷戦の地政学と国際開発</p> <p>第8回目 開発のオーナーシップ(1) 農村開発</p> <p>第9回目 開発のオーナーシップ(2) 人口抑制</p> <p>第10回目 開発のオーナーシップ(3) NGOの第2の行政化</p> <p>第11回目 開発のオーナーシップ(4) マイクロファイナンス</p> <p>第三部 ネクスト11としてのバングラデシュ</p> <p>第12回目 (新)国際分業におけるバングラデシュの位置づけ</p> <p>第13回目 ファストファッション産業から見るバングラデシュと日本</p> <p>第14回目 日本に暮らすバングラデシュ人</p> <p>第15回目 フィードバック</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

前期に地理学特殊講義「地誌の歴史と現代的意義」を履修することが望ましいが、履修していなくても受講可能。ただし、「地誌の歴史と現代的意義」を履修しなかった人は、第1回目のオリエンテーションにできる限り出席してください。

【成績評価の方法・観点】

第2回目～14回目の授業後に提出するコメントシート（4点×13回＝52点）、期末レポート（48点）で評価する。

- ・コメントシートと期末レポートは、文章のわかりやすさ、構成力、論理的な展開、説得力、定められた形式にしたがっているかという点を考慮して評価する。
- ・必ずしも上記の点が十分でなくても、授業内容を踏まえた記述や多くの文献・資料の参照・引用をする等の努力が認められる場合も高く評価する。
- ・ただし、すべてまたはほとんどの文章が文献やウェブサイトからそのまま引用しただけの場合は低く評価する。
- ・期末レポートで出典を明記せず盗用・剽窃を行った場合は単位を認めない。

【教科書】

授業でレジュメを配布する。

【参考書等】

（参考書）

長田華子 『バングラデシュの工業化とジェンダー：日系縫製企業の国際移転』（お茶の水書房、2014）ISBN:978-4275010582

向井史郎 『バングラデシュの発展と地域開発』（明石書店、2002）ISBN:978-4750316666

Breckenridge, C. A. and van der Veer, P. 『Orientalism and the Postcolonial Predicament: Perspectives on South Asia』（University of Pennsylvania Press、1993）ISBN:978-0812214369

【授業外学修（予習・復習）等】

受講生は授業（金曜4限）後の次の日曜までにコメントシートをまとめてワードまたはPDFファイルで授業担当者に提出すること。提出方法については第1回目の授業で説明する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは火曜15半～17時半。必ず事前にメールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 27102 LJ46										
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義Ⅰ) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏 こころの未来研究センター 准教授 阿部 修士 情報学研究科 教授 熊田 孝恒 文学研究科 准教授 森口 佑介 文学研究科 准教授 黒島 妃香 文学研究科 講師 Duncan Wilson 文学研究科 助教 藤本 花音				
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語	
題目		実験心理学概論										
[授業の概要・目的]												
この講義の目的は、実験心理学の基礎的知識から最新の研究成果を身につけることにある。多様な心理学領域から、行動の科学としての目的、問題、手法、考え方などを学ぶとともに、最新の研究成果を知ることによって実験心理学を概観する。												
[到達目標]												
実験心理学の多様な領域に関する基本事項を理解するとともに、その最新の研究成果に触れることによって現在の研究の動向を理解することができるようになる。												
[授業計画と内容]												
ヒトや動物の行動を解明するための実験心理学的手法とその成果について、最新のトピックやデモを織り込みながら、講座の教員全員および関連部局の教員によるリレー形式で講じる。 講義内容は以下の通りである。必修科目ではないが、心理学専修を希望する者はぜひ履修するよう強く推奨したい。												
第1回 実験心理学とは何か(全員)												
第2回 脳と神経(蘆田)												
第3回 感覚知覚の諸相(蘆田)												
第4回 感覚知覚の歴史と基本法則 クロスモーダル知覚(蘆田)												
第5回 心理物理学的測定法(蘆田)												
第6回 知能(蘆田)												
第7回 社会的知性(阿部)												
第8回 意思決定(阿部)												
第9回 注意(熊田)												
第10回 実行機能(熊田)												
第11回 バーチャルリアリティ(藤本)												
第12回 身体(藤本)												
第13回 学習理論(黒島)												
第14回 記憶(黒島)												
第15回 前期総括(黒島)												
第16回 後期導入(黒島)												
第17回 思考・推理(黒島)												
第18回 社会的知性(黒島)												
第19回 メタ認知(黒島)												
-----系共通科目(心理学)(講義Ⅰ)(2)へ続く-----												

系共通科目(心理学)(講義Ⅰ)(2)

- 第20回 動物心理学と動物の福祉 (Wilson)
第21回 認知バイアスと感情 (Wilson)
第22回 脳と行動の一側優位性 (Wilson)
第23回 顔認知 (Wilson)
第24回 発達理論 (森口)
第25回 発達理論 (森口)
第26回 認知発達 (森口)
第27回 社会性発達 (森口)
第28回 感情発達 (森口)
第29回 総括 (全員)
第30回 試験

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験 (筆記) による(100%)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
京都大学心理学連合 『心理学概論』 (ナカニシヤ出版) ISBN:9784779503993 (心理学の全貌を基礎から知るための概論書。)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

紹介された文献や参考図書を読んでおくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

心理学専修を希望する可能性がある者は、2回生で履修することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学67

科目ナンバリング		U-LET28 27106 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義IIb) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 黒島 妃香			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		知性と感情の系統発生論									
【授業の概要・目的】											
多様な動物種の知性と感情の機能を学び、それらがいかに進化したのか、ヒトの心の働きは其中でいかに位置づけられるのかを考察する。											
【到達目標】											
動物たちのゆたかな心の働きを知り、心の多様性を学び、ヒトの心を相対化することを通じて、ヒト中心主義を脱し、新たなヒト観を構築する。ヒトが決して特別な存在ではないこと、多様な心の存在が地球共生系の未来へのカギであることを理解し、全ての生にとって真に幸福な未来を志向した、新たな行動指針を考える力を身につける。											
【授業計画と内容】											
ヒトの心の機能は数十億年にわたる進化の所産である。化石種の心が直接的に調べられない以上、他の現生動物種の心の働きを分析し、相互に比較することが、その過程を跡づけるための可能な唯一の方法である。講義では、学習の原理について復習したあと、比較認知科学的観点から、多様な動物種の感覚や知覚、記憶、言語、概念形成、感情、社会的知性、意識などについて現在までに得られた諸事実を紹介し、心の多様性とその進化について論じるとともに、ヒトの心を動物たちの心の中にどのように位置づければよいかを考える。以下の予定で講じるが、適宜変更もありうる。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．イントロ - 比較認知科学事始め 2．学習1 (学習の基本的諸原理) 3．学習2 (学習の生物学) 4．動物たちから見た世界 - 感覚・知覚1 (色彩視) 5．動物たちから見た世界 - 感覚・知覚2 (形態視) 6．動物たちの記憶 7．動物たちの思考1 (概念) 8．動物たちの思考2 (推理) 9．動物たちの社会的知性と感情1 (感情) 10．動物たちの社会的知性と感情2 (戦術的社会技能 - 欺きと協力) 11．動物たちの社会的知性と感情3 (社会的知性の諸要素) 12．動物たちの意識と内省1 (自己認知・メタ認知) 13．動物たちの意識と内省2 (心的時間旅行) 14．動物たちの意識と内省3 (自己理解を基盤とした他者理解) / 総括・討論 15．フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(心理学)(講義IIb)(2)へ続く -----											

系共通科目(心理学)(講義IIb)(2)

[成績評価の方法・観点]

評価方法：講義後に行う小クイズや小レポートなどによる平常点（50%）、及び期末レポート（50%）により評価

評価基準：期末レポートについては、到達目標の達成度に基づき評価する

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

藤田和生 『動物たちのゆたかな心』（京都大学学術出版会）ISBN:9784876988228（講師のラボでおこなわれた研究を中心にまとめた読み物）

藤田和生 『比較認知科学』（放送大学教育振興会（NHK出版））ISBN:9784595317040（放送大学の同名の科目の印刷教材。「比較行動学」の改訂版として2017年3月に刊行。最新の比較認知科学の内容が平易に論じられている）

藤田和生（編著） 『動物たちは何を考えている？ 動物心理学の挑戦』（技術評論社）ISBN:9784774172583 C3045（動物の心の働きに関するさまざまな話題と最新の成果をQ&Aの形で紹介したもの）

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の講義内容を、レジュメや教科書、参考書などを参照して、整理しておくことが重要である。

（その他（オフィスアワー等））

受講者には、毎回の授業への出席と、積極的な質問や討論を期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学68

科目ナンバリング		U-LET28 27109 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義IIe) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		心理学講義IIe：知覚心理学									
【授業の概要・目的】											
人間の感覚・知覚について、視知覚を中心に概説する。心理物理学、解剖学、神経生理学などの知見をあわせて感覚・知覚の諸機能とそのメカニズムについて理解を深めることを目的とする。											
【到達目標】											
ヒトの知覚機能についての基本的事項を理解し、心理学におけるより専門的なトピックを理解するための基礎を習得する。											
【授業計画と内容】											
講義内容は次の通り。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 錯視と恒常性 2 視覚メカニズムと補完 3 色覚 4 明るさの知覚 5 運動視 6 立体視 7 顔の知覚 8 眼球運動 9 聴覚 10 味覚と嗅覚 11 多感覚相互作用 12 時間知覚と注意 13 美の知覚 14 総括 15 期末試験 16 フィードバック (実施方法は授業中に指示する) 											
なお、状況により一部の順序、内容を変更する可能性がある。											
【履修要件】											
特になし											
-----系共通科目(心理学)(講義IIe)(2)へ続く-----											

系共通科目(心理学)(講義Ile)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末試験（筆記）による。講義範囲についての到達目標達成度により評価する。
なお、社会的状況により期末試験の実施が困難な場合は他の評価法に変更する可能性がある。

[教科書]

北岡明佳編 『知覚心理学』（ミネルヴァ書房）ISBN:978-4-623-05769-6（必須ではないが強く推奨する。）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義の後に教科書や関連する本，ウェブサイトなどを見て基本的事項を確認するとともに，各自の興味に合わせてより詳細な理解を得るように努める。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは設定しない。面談希望はメールで受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 27113 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義IId) (発達心理学) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森口 佑介			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		認知発達論 (発達心理学)									
【授業の概要・目的】											
<p>ヒトの認識はいかに発生するのか。19世紀末から本格的に問われるようになった認知発達に関する問題は、20世紀に著しく発展し、21世紀には神経科学や生物学、言語学、社会学、経済学、教育学などとの接点を得て、新しい展開を迎えている。本講義では、認知発達に関する歴史的経緯を概観したのちに、認知発達の最新の知見について紹介する。意識、記憶、実行機能、社会的認識などを例に取り上げながら、認識がいかに発生するか、遺伝的要因と環境的要因にいかなる影響をうけるかを講義する。</p>											
【到達目標】											
ヒトの認知発達に関するプロセスやメカニズムを説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 認知発達理論小史(1)ピアジェ 3 認知発達理論小史(2)ヴィゴツキーから新生得主義まで 4 認知発達理論小史(3)情報処理理論からコネクショニズムまで 5 脳の発達理論 6 遺伝と環境 7 記憶の発達 8 実行機能の発達 9 社会的認識の発達 10 自己の発達 11 想像力の発達 12 情動の発達 13 意識の発生 14 発達障害 15 まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価 (50点) およびレポート課題を課す (50点)											
----- 系共通科目(心理学)(講義IId) (発達心理学) (2)へ続く -----											

系共通科目(心理学)(講義IId)(発達心理学)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

森口佑介 『おさなごころを科学する 進化する乳幼児観』(新曜社)

森口佑介 『自分をコントロールする力 非認知スキルの心理学』(講談社現代新書)

森口佑介 『子どもの発達格差 将来を左右する要因は何か』(PHP新書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に別途指示する。読んでおくべき論文や文献等紹介する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 37134 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義A) (神経・生理心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 月浦 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		神経心理学									
【授業の概要・目的】											
<p>脳の様々な疾患によってヒトの脳が損傷されると、その損傷した領域の違いによって、言語や行為、記憶などの様々なタイプの高次脳機能障害が起こる。本講義では、これらの高次脳機能障害を理解することによって、脳を媒介とした心理メカニズムを理解することを目指す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトのさまざまな認知機能が脳を媒体としてどのように表現されているのかについて、基礎科学としての認知神経科学についての理解を深める。 ・脳の疾患によって起こる様々な高次脳機能の障害についての臨床的観点からの知識を習得する。 ・脳を介して心の働きを客観的に理解することを通じて、自らを客観的にみつめる力を体得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体としているが、脳が様々な疾患（脳梗塞・脳出血・変性疾患等）によって（局所的に）損傷されると、その損傷領域の違いによって様々なタイプの高次脳機能障害が起こる。その事実は、損傷した領域と障害を受けた脳機能との間の相関関係を我々に示し、そこから脳を媒体とした認知機能のメカニズムを推測することができるようになる。本講義では、様々な高次脳機能障害を解説することによってその病態を臨床的に理解し、そこからヒトの高次な認知機能の基盤となる脳内メカニズムを理解することを目指す。</p> <p>講義で扱う内容は概ね以下のとおり。以下のテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業を行う。順番や番号は目安であり、多少変更する可能性もあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．授業のガイダンスと神経心理学の方法の概説 2．基本的脳解剖 3．視覚認知の障害 4．行為の障害 5．言語の障害 6．言語の障害 7．記憶の障害 8．記憶の障害 9．感情と情動の障害 10．前頭葉機能の障害 11．神経心理学的検査 12．神経心理学的検査 13．「知・情・意」の神経心理学 14．教養教育実習 15．期末試験 16．フィードバック（フィードバック方法は別途連絡します） 											
心理学(特殊講義A) (神経・生理心理学) (2)へ続く											

心理学(特殊講義A) (神経・生理心理学) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

原則的に、試験（100点）によって評価する。ただし、試験の得点に平常点を考慮することもある。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。配布資料についてはKULASISにもアップするので、自習の際に活用すること。

【参考書等】

（参考書）

石合純夫 『高次脳機能障害学』（医歯薬出版）

山鳥 重 『神経心理学入門』（医学書院）

河村満・高橋伸佳 『高次脳機能障害の症候辞典』（医歯薬出版）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の前日までには授業資料をクラスス上にアップロードするので、事前に内容を確認しておくこと。授業後には授業内容と資料を照らし合わせた上で、必要に応じて復習をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

履修希望者が教室定員を大きく超える場合は履修制限を行う。履修制限の方法は別途指示する。オフィスアワーについては、KULASISを参照のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 37135 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義B) (神経・生理心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 月浦 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		神経心理学									
【授業の概要・目的】											
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体として制御されている。近年、機能的磁気共鳴画像法（fMRI）などの脳機能イメージング法の発展により、ヒトの高次な認知過程に関連する脳の神経活動のパターンを可視化することが可能になってきている。本講義では、高次脳機能障害を呈する脳損傷患者の事例と、健常者を対象とした高次脳機能に関連する脳機能イメージング研究を対比して解説し、その基盤となる脳内機構を理解することを目指す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトのさまざまな認知機能が脳を媒体としてどのように表現されているのかについて、基礎科学としての認知神経科学についての理解を深める。 ・脳機能イメージングの方法についての基礎的知識を習得する。 ・脳を介して心の働きを客観的に理解することを通じて、自らを客観的にみつめる力を体得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体として制御されている。ヒト認知機能の脳内メカニズムに関しては、伝統的に脳損傷患者を対象として損傷領域と特定の認知機能の障害パターンから研究が行われてきた。しかし、近年の脳機能イメージング技術の発達により、健常者を対象として認知機能に關与する脳内機構を可視化することが可能になってきた。本講義では、脳損傷患者に対する研究と脳機能イメージング法から得られた様々な高次な認知機能を媒介する脳内機構の研究の両方を対比して概説し、ヒトの高次な認知機能の基盤となる脳内機構を理解することを目指す。</p> <p>講義で扱う内容は概ね以下のとおり。以下のテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業を行う。順番や番号は目安であり、多少変更する可能性もあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンスと神経心理学の方法の概説 2. 基本的脳解剖 3. 知覚の脳機能イメージング 4. 異種感覚統合と行為の脳機能イメージング 5. コミュニケーションの脳機能イメージング 6. コミュニケーションの脳機能イメージング 7. 記憶の脳機能イメージング 8. 記憶の脳機能イメージング 9. 感情と情動の脳機能イメージング 10. 前頭葉機能の脳機能イメージング 11. 社会的認知の脳機能イメージング 12. 脳機能イメージングの応用 13. 「知・情・意」の神経心理学 14. 教養教育実習 15. 期末試験 											
心理学(特殊講義B) (神経・生理心理学) (2)へ続く											

心理学(特殊講義B) (神経・生理心理学) (2)

16. フィードバック (フィードバック方法については別途指示します)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

原則的に、試験(100点)によって評価する。ただし、試験の得点に平常点を考慮することもある。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。配布資料についてはKULASISにもアップするので、自習の際に活用すること。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業の前日までには授業資料をクラスス上にアップロードするので、事前に内容を確認しておくこと。授業後には授業内容と資料を照らし合わせた上で、必要に応じて復習をしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

履修希望者が教室定員を大きく超える場合は履修制限を行う。履修制限の方法は別途指示する。オフィスアワーについては、KULASISを参照のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学72

科目ナンバリング		U-LET28 37136 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義A)(知覚・認知心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 齋木 潤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学(知覚・認知心理学)									
[授業の概要・目的]											
認知心理学は知覚、記憶、思考、意思決定などを含む広い分野であるが、本講義は、視覚による認識過程を主たる題材として、認知心理学の基本的な考え方、研究の方法論などを理解することを目指す。視覚認識に関する基礎的な知識を土台として、視覚認識における記憶、注意の役割に焦点を当てて解説する。											
[到達目標]											
視覚に関する科学的研究を主な題材として、主観現象の科学である認知心理学の背後にある基本的な考え方を理解する。基本的な事実の習得とともに、研究すべき問題の立て方、それに対するアプローチ、実験結果の評価の仕方、を理解する。											
[授業計画と内容]											
以下のトピックを取り上げる。各トピックにつき2 - 3回の講義を割り当てる。 第1回 インTRODクシヨN 第2 - 4回 視覚システムの基礎 第5 - 6回 3次元構造の知覚 第7 - 8回 物体認識 第9 - 10回 視覚認知における記憶の機能 第11 - 12回 視覚認知における注意の機能 第13 - 14回 認知における特徴の統合 第15回 試験 第16回 フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
期末試験											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業で扱った内容について、他の解釈、他の可能性、発展研究など、自分自身で考えてみること。 (その他(オフィスアワー等))											
特になし											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学73

科目ナンバリング		U-LET28 37137 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義B) (知覚・認知心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 齋木 潤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学 (知覚・認知心理学)									
【授業の概要・目的】											
認知心理学は知覚、記憶、思考、意思決定、運動制御などを含む広い分野であるが、本講義では、視覚による認識過程を主たる題材として、認知心理学の基本的な考え方、研究の方法論などを理解することを目指す。視覚認識に関する基礎的な知識を土台として、探索行動を題材に取り上げ、知覚、意思決定、眼球運動の機能に焦点を当てて解説する。											
【到達目標】											
視覚に関する科学的研究を主な題材として、主観現象の科学である認知心理学の背後にある基本的な考え方を理解する。基本的な事実の習得とともに、研究すべき問題の立て方、それに対するアプローチ、実験結果の評価の仕方、を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下のトピックを取り上げる。各トピックにつき2 - 3回の講義を割り当てる。											
第1回 イン트로ダクション 第2 - 4回 視覚システムの基礎 第5 - 6回 シーンの認知 第7 - 8回 探索行動における視覚の機能 第9 - 10回 視覚探索と眼球運動 第11 - 12回 探索行動における意思決定 第13 - 14回 探索行動における記憶の役割 第15回 試験 第16回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末試験。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 特になし											
----- 心理学(特殊講義B) (知覚・認知心理学) (2)へ続く -----											

心理学(特殊講義B) (知覚・認知心理学) (2)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業で扱った内容について、他の解釈、他の可能性、発展研究など、自分自身で考えてみること。

(その他 (オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学74

科目ナンバリング		U-LET28 37138 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) (神経・生理心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		こころの未来研究センター- 助教 上田 竜平			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学(特殊講義)									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、心理過程と生理学的な活動との対応関係を探る研究分野における、主要な方法論 - 具体的には、神経心理学や脳機能イメージングといった認知神経科学的手法 - を解説する。研究手法についての理解を深めた後に、前頭葉機能・記憶・情動・共感・意思決定など、主に社会神経科学 (Social Neuroscience) における知見を中心に概説する。これまでに得られている基礎的な知見に加え、発展的・建設的な思考能力を身につけることで、受講者がそれぞれの研究に活かせるようにすることを目的とする。</p> <p>また本講義では、英語によるTED talksも活用する。第一線の研究者による英語のプレゼンテーションを視聴することで、研究を俯瞰的にとらえると共に、研究を行う上で必要なスキルを意識する機会を提供する。</p>											
【到達目標】											
<p>認知神経科学・社会神経科学の基礎を身につけ、自身の研究に活かせるようにする。 認知神経科学・社会神経科学の研究における発展的・建設的な思考能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
初回にオリエンテーションを行う。2週目以降は以下のような内容について授業を行う予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 認知神経科学の研究手法：神経心理学による研究 3. 認知神経科学の研究手法：fMRI 4. 認知神経科学の研究手法：その他の脳機能の測定手法 5. 前頭葉機能：下位領域の区分 6. 前頭葉機能：機能の評価とこれまでの知見 7. 記憶の神経機構 8. 情動の神経基盤 9. 報酬と意思決定 10. 選好判断と社会的関係の構築 11. 共感と利他行動 12. 道徳的判断 13. 文化神経科学 14. 発達社会神経科学 15. 講義全体のまとめ及びフィードバック 											
<p>なお各講義の終盤には、取り扱うトピックに関連する英語のTED talks (http://www.ted.com/talks) を教材として用いる。TED talksでは世界的に著名な研究者による優れた講演が行われており、最新の研究成果・現在のトレンド・英語によるプレゼンテーションの方法など、研究を行うために必要な</p>											
心理学(特殊講義) (神経・生理心理学) (2)へ続く											

心理学(特殊講義)(神経・生理心理学)(2)

多くの知識とスキルを学ぶ貴重な機会を提供するものである。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価(50%)及びレポート(50%)。
4回以上欠席した場合には単位を認めない。

【教科書】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

初回のオリエンテーション時に、教材として使用するTED talk (<http://www.ted.com/talks>) についての紹介を行う。予習は必須ではないが、繰り返し視聴することによって、理解を深めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学75

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義Ke)(学習・言語心理学) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 楠見 孝			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		認知心理学概論 I									
【授業の概要・目的】											
人間の hochu 認知過程，学習過程の基本的特性とそれをとらえる認知心理学，学習・言語心理学の主要な理論とモデルに関して，実験データに基づいて検討します．あわせて，教育における応用についても検討します．											
【到達目標】											
1.認知心理学，学習・言語心理学の専門用語・理論，方法論を理解する． 2.心理学の考え方を身につけ，批判的に思考できるようになる． 3.経験を通して人の行動や認知が変化する過程を説明できる（公認心理師）． 4.言語や知識の習得における機序について説明できる（公認心理師）．											
【授業計画と内容】											
1.序論 a.認知心理学における学習・言語の研究， b.認知心理学の系譜 2.学習の基礎 a.初期学習 b.条件づけ c.学習の応用 3.社会的学習 a.モデリング学習 b.セルフコントロール c.道徳的不活性化 4.技能学習と熟達化 a.技能学習 b.熟達化 5.知能と創造性 a.知能 b.創造性 6.言語 a.概念 b.テキスト理解 c.認知言語学とメタファ 7.言語の習得 a.意味論・語用論・統語論 b.文法獲得 c.語彙獲得 8.問題解決と学習の転移 a.問題解決，試行錯誤，洞察学習 b.類推と転移 9.演繹推論と帰納推論 a.演繹的推論 b.実用論的推論スキーマ c.帰納的推論 d.カテゴリ帰納 10.直観的推論と批判的思考 a.ヒューリスティクスとバイアス b.リスク認知 11.批判的思考 a.批判的思考のプロセス b.態度 c.教育と評価 12.意思決定 a.意思決定 b.後悔 13.感情と言語 a.感情と言語 b.感情と文化 14.応用とまとめ a.広告 b.なつかしさ 15.フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
系共通科目(心理学)(講義Ke)(学習・言語心理学)(2)へ続く											

系共通科目(心理学)(講義Ke)(学習・言語心理学)(2)

【成績評価の方法・観点】

認知心理学（学習・言語心理学）において用いられる基本的な概念、理論、方法論、考え方を、どの程度理解できているかが成績評価の基準となる。
評価は、授業への参加（出席・課題など）（30％）、学期末試験（70％）に基づいて行う。

【教科書】

楠見 孝 『学習・言語心理学（公認心理師の基礎と実践8）』（遠見書房,2019）ISBN: 9784866160580

【参考書等】

（参考書）

楠見 孝 『思考と言語 現代の認知心理学3』（北大路書房,2010）ISBN:9784762827198
日本認知心理学会 『認知心理学ハンドブック（有斐閣ブックス）』（有斐閣,2013）ISBN: 9784641184169

（関連URL）

<http://cogpsy.educ.kyoto-u.ac.jp/personal/Kusumi/index-j.htm>(楠見のホームページ)

【授業外学修（予習・復習）等】

予習すべきこと

・あらかじめ指定した教科書・参考文献を読んで、問いをたてる。

復習すべきこと

・自らの問いが、授業によって解決できたかを確認し、さらなる問いをたてる

関心を持ったテーマについては、自ら資料を収集し、探究を深めることを勧める。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学76

科目ナンバリング		U-LET28 27115 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義Kc) (知覚・認知心理学) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 准教授 野村 理朗			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目											
【授業の概要・目的】											
<p>認知心理学は、人間の認知機能のしくみについて、実験、調査、観察等のアプローチにより実証的に解明する学問である。本授業では、認知心理学の主要な理論や構成概念を概説するとともに、それらとシステム神経科学、遺伝学等の知見との関連について、心理学の将来像をイメージできるような人文の知と科学とを横断しつつ講義する。このように本講義は、人間の認知の基本特性についての基礎知識を学ぶとともに、それらを融合した新しい着想、新しい研究の手がかりを教授することも目標としている。</p>											
【到達目標】											
<p>人間の認知機能について、実験、調査、観察等のアプローチにより、何がどのように明らかとされており、将来に向けてどのような課題が残っているのかを、近隣領域の基礎知識もふまえて、考察できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテーマで講義を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 . 序論 2 . 認知心理学の研究史 3 . 知覚と記憶 4 . 感情I (感情の理論) 5 . 感情II (非言語情報と脳内情報処理) 6 . 認知と脳 (脳の構造と機能、計測の方法) 7 . 認知と神経情報伝達物質 (ドパミン、セロトニンなど) 8 . 認知と遺伝子I (遺伝学の基礎) 9 . 認知と遺伝子II (認知と感情に影響する遺伝子) 10 . 認知と遺伝子III (遺伝子発現に影響する状況要因) 11 . 実行機能I (ワーキングメモリ、感情制御など) 12 . 実行機能II (注意制御など) 13 . 認知と社会 (集団と個人) 14 . 認知と文化 (文化、地域、風土が生みだす個人差) 15 . まとめ・フィードバック <p>* テーマとその順序は、受講者の理解度に応じて変更される可能性がある。</p>											
系共通科目(心理学)(講義Kc) (知覚・認知心理学) (2)へ続く											

系共通科目(心理学)(講義Kc)(知覚・認知心理学)(2)

【履修要件】

心理学の入門的な授業を履修していることが前提であり、これを基に授業を進める。

【成績評価の方法・観点】

授業への参加（発言・発表、小レポート等）50%とテスト（期末の形式は授業中に指示）50%の合計点で評価する。なお、授業内で募集する心理学実験への参加などが評価に加味されることがある。

【教科書】

『子安増生・楠見孝・齋藤智・野村理朗（編）『「教育認知心理学の展望」』（ナカニシヤ出版、（2016））』

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

各回で紹介された研究パラダイムについて、十分な復習をしておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

前期の「認知心理学概論」とあわせて、認知心理学の主要なトピックスをカバーするが、相互に独立して受講可能である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学77

科目ナンバリング		U-LET28 37132 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義)(感情・人格心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 講師 梅村 高太郎			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目											
【授業の概要・目的】											
この講義では、人格（パーソナリティ）と感情が心理学においてどのように捉えられているのかを論じる。まず、人格の概念について基本的な理論を説明した後、その個人差を捉える方法や、人格の形成過程や偏りについて解説する。次に、感情に関する理論と感情喚起の機序について基本的な考え方を紹介する。そして、心理臨床と人格との関連についても論じる。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人格に関する基本的な心理学理論や測定法について説明できるようになる。 ・ 人格の形成過程に影響を与える要因について理解する。 ・ 感情に関する理論を学び、感情の仕組みについて心理学的に説明できるようになる。 ・ 感情が行動に及ぼす影響を理解する。 											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進み具合や受講生の理解の状況に応じて内容や順序を変えることがある。なお、授業は基本的にフルオンライン（同期型）を予定している。											
第1回 オリエンテーション 第2回 人格の概念 第3回 人格の理論（1）特性論 第4回 人格の理論（2）類型論 第5回 人格と状況 第6回 人格と遺伝 第7回 人格の測定（1）質問紙法 第8回 人格の測定（2）投映法 第9回 人格の測定（3）研究例の紹介 第10回 感情の基礎 第11回 感情の理論 第12回 感情の測定 第13回 人格と心理臨床（1） 第14回 人格と心理臨床（2） 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- 心理学(特殊講義)(感情・人格心理学)(2)へ続く -----											

心理学(特殊講義)(感情・人格心理学)(2)

[成績評価の方法・観点]

【評価方法】

平常点評価：100%（コメントカード：60%，小テスト：40%）

【評価方針】

到達目標について、教育学部の成績評価の方針に従って評価する。

[教科書]

講義に必要な資料はその都度配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・ 授業時に提示された参考文献を読んで、授業内容についてのさらなる理解を深める。
- ・ 授業を通じて得た知識や疑問等をきっかけに、自ら積極的に関連する資料を収集し、理解を深めることが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

授業前後の時間や授業毎に提出するコメントカードで、考えたことや疑問等を受け付ける。必要なフィードバックを行うことで、対話的に授業を進める。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 37133 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義)(精神疾患とその治療) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		パークサイドこころの発達クリニック 清野 百合 精神科医			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		精神疾患の基礎を知る									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、心理的援助を行う際に必要な、精神医学的見地からの精神疾患の診断とその治療の基礎を学ぶことにある。講義では、まず精神疾患の症状や診断、治療法についてその基礎を系統的に提示し、続いて代表的な精神疾患について、症状、診断、治療法などを論じる。											
【到達目標】											
心理的援助を行うにあたり必要となる、精神疾患についての基礎的知識を習得する。特に、代表的疾患の症状、診断、治療法等についての理解を深める。											
【授業計画と内容】											
第1回 精神疾患とは 第2回 精神症候学 第3回 精神医学的診断学 第4回 治療的アプローチ 薬物療法 第5回 治療的アプローチ 心理療法 第6回 治療的アプローチ チーム医療 / 医療機関との連携 第7回 統合失調症 症候学 第8回 統合失調症 薬物療法 / 精神科リハビリテーション 第9回 うつ病 / 双極性障害 第10回 強迫症および不安症群 第11回 心的外傷およびストレス因関連障害群 第12回 神経発達症群 第13回 パーソナリティ障害群 第14回 精神疾患の診断と治療のまとめ < 期末試験 > 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
定期試験 60点 平常点評価 40点											
----- 心理学(特殊講義)(精神疾患とその治療)(2)へ続く -----											

心理学(特殊講義)(精神疾患とその治療)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

濱田秀伯 『精神医学エッセンス<第2版補正版>』(弘文堂 2020)

三村將、幸田るみ子、成木迅編 『精神疾患とその治療』(医歯薬出版 2019)

グレン・O・ギャバード 『精神力動的精神医学 第5版』(岩崎学術出版社 2019)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に別途指示する

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17202 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義 I) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語学概論 音声学・音韻論・形態論を中心に									
[授業の概要・目的]											
言語学は、人間のコトバに関わる現象の分析を通じてコトバの使用やその能力を人間が理解可能な形で明らかにしようとする学問である。私たちにとってコトバはきわめて身近な存在でありながら多くの受講生にとって言語学はなじみのない学問領域であると思われる。この授業では、言語学の専門的知識をもたない学生を対象として、言語や言語音を研究するためにこれまで用いられてきた基礎的な概念や用語、分析方法について、その必要性や問題点を概説する。											
[到達目標]											
言語学の各分野で使われている概念・用語や分析方法についての基礎的知識を修得し、そうした知識を用いて実際に言語データを分析することができるようになる。											
[授業計画と内容]											
この授業では、人間言語の特徴と言語研究の方法について概観したのち、言語学を構成する主要分野のうち音声学・音韻論と形態論に関するトピックを中心に解説する。以下のようなスケジュールと題目で授業を進める予定である。今年度は大竹昌巳がすべての授業を担当する。											
第1回 ガイダンスとイントロダクション 第2回 言葉話す 人間言語の特徴 第3回 言葉探究する 言語研究の方法 第4回 音を出す 調音音声学 第5回 音を書く 国際音声記号 第6回 音を見る 音響音声学 第7回 音を別ける 音素分析 第8回 音を分ける 音節とモーラ 第9回 音を上げる・下げる アクセントとイントネーション 第10回 言葉を復元する 歴史比較言語学 第11回 語を分ける 形態素分析 第12回 語を作る(1) 派生と屈折 第13回 語を作る(2) 複合 第14回 語を再考する 形態論と統語論 第15回 フィードバック											
----- 系共通科目(言語学)(講義 I)(2)へ続く -----											

系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（不定期の小レポート）【40%】および定期試験（筆記）【60%】により評価する。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の中で分からなかった概念・用語や興味をもった事柄は、授業で紹介される文献等を参考に自分で調べて知識として定着させてほしい。ただし、大学での学びにおいて唯一絶対の正解は存在しない。教師の言うことや本に書いてあることには常に疑いの目を向け、自分なりにあれこれ考えてみる事が大切である。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17204 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義Ⅰ) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語学概論Ⅱ - - 統語論, 談話文法, 意味論を中心に									
[授業の概要・目的]											
この授業では, さまざまな研究者の言説の解説を通じて, 言語学の理論的前提と方法論を教授し, 同時に言語の奥深さを体験してもらう。											
[到達目標]											
言語学の理論と基本的な分野に関して, 以下のことを理解する。 1) 何が問題となっているのか。 2) その問題に対してどのような考えがあるのか。 3) それらの考えの背後に, どのような言語観ひいては人間観があるのか。											
[授業計画と内容]											
言語学の目的は, 言語の考察を通して人間を理解することにあるが, その道は一つではなく多様である。この授業では現代言語学のさまざまな考えを紹介しながら, その問題意識をなるべく具体的な形で解説する。中心的なトピックは, 統語論, 談話文法, 意味論である。今年度は定延利之がすべての授業を担当する。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに～記号的言語観、恣意性 2. 言語学の諸分野、何を見ないで済ませるか 3. 談話の理解1：文脈・状況、パラ言語と非言語、線条性 4. 談話の理解2：時間経過 5. コミュニケーション観と言語 6. 構造主義言語学と「認知革命」 7. 認知科学の中の言語学 8. カテゴリ論 1：ブルカテゴリーとプロトタイプカテゴリ 9. カテゴリ論 2：表象主義と状況論 10. 状況の中の言語 11. デキゴトモデル 「する」言語と「なる」言語 12. チョムスキー言語学と言語類型論 13. 言語類型論からアプローチする言語普遍性 14. 言語とメディア 15. まとめ 											
-----系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)へ続く-----											

系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)

【履修要件】

前期の言語学講義Ⅰを履修していることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

筆記試験

【教科書】

授業時にプリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

いくつかの基本的現象に関しては、世界諸言語の言語データを分析する。授業時以外も言語データと向き合う必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17206 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義II) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語学の多様なアプローチ									
[授業の概要・目的]											
言語の研究には多様なアプローチがある。この講義では、古代から現代に至る言語学研究においていかなる研究手法が取られてきたか、言語の歴史、東洋の言語研究、言語と社会に注目して講義する。言語学についての予備知識がない学生を対象にしてこれらのトピックを論じる。											
[到達目標]											
言語の歴史、東洋の言語研究、言語と社会に関する言語研究の概要が把握され、各領域における分析手法と現代言語学の関係が理解できるようになる。											
[授業計画と内容]											
以下のテーマについて、順次概説していく。今年度はアダム・キャット、千田俊太郎が授業を分担する。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 古代世界の言語研究：パーニニ(1) -- CATT, Adam Alvah 2. 古代世界の言語研究：パーニニ(2) -- CATT, Adam Alvah 3. 古代世界の言語研究：パーニニ(3) -- CATT, Adam Alvah 4. 現代的な「言語学」の誕生：印欧比較言語学(1) -- CATT, Adam Alvah 5. 現代的な「言語学」の誕生：印欧比較言語学(2) -- CATT, Adam Alvah 6. 現代的な「言語学」の誕生：印欧比較言語学(3) -- CATT, Adam Alvah 7. 現代的な「言語学」の誕生：印欧比較言語学(4) -- CATT, Adam Alvah 8. ヘルンさんことば -- 千田 俊太郎 9. ピジン・クレオール研究史 -- 千田 俊太郎 10. 接触言語の実際 -- 千田 俊太郎 11. 標準語 -- 千田 俊太郎 12. 表記の変遷と規範 -- 千田 俊太郎 13. 多言語使用と公用語 -- 千田 俊太郎 14. 媒介言語論 -- 千田 俊太郎 15. まとめ -- 千田 俊太郎・CATT, Adam Alvah 											
この講義では多岐に渡る問題を取り扱い、また同じ問題について他の回で異なる視点から取り組む場合が含まれる。そのため、回ごとの区切りが設けにくいところがあるが、上記の大テーマに沿って話が進むものと心得ていただきたい。											
----- 系共通科目(言語学)(講義II)(2)へ続く -----											

系共通科目(言語学)(講義II)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中に指示する課題（75％）と平常点（25％）を勘案する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は必要ないが、講義で配布された資料や言及された本に目を通すなどして、復習をしなければ講義内容を完全に把握することは難しい。

（その他（オフィスアワー等））

授業の後に、相談を受け付ける。それ以外でも適宜面談の機会を持つが、メールなどで事前にアポイントメントを取ることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17208 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義II) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語学の歴史									
[授業の概要・目的]											
<p>言語の研究は長い歴史を有するが、高校までの教科に「言語学」科目が存在しないため、多くの受講生にとってなじみの薄い研究分野になるのではないかと懸念される。この講義では、言語学についての予備知識がない学生を対象にして、古代から現代に至る言語研究の歴史を概観することによって、人間が言語に対してもってきた関心の向け方と捉え方の変遷を辿り、今日の言語学の研究方法や、そこで使用される概念・用語の成立の背景について講義する。</p>											
[到達目標]											
<p>過去の言語研究の流れの概要を把握し、現在の言語学の術語や概念の成立の事情が理解する。さまざまな言語における言語事実を基礎知識として身につけ、言語の在り方についての理解を深める。この、言語事実の多様性を前提として、その背後に存在する通言語的な規則性が見出されてきた歴史を把握する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>言語研究に大きな影響を及ぼした個人や分析手法を取り上げ、その成果について解説する。今年度後期は千田俊太郎がすべての授業を受け持つ。解説は、以下の順序に沿って行ってゆく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに: 古代の言語学 2. 母語の「発見」と異民族語の「発見」 3. 「インド」との遭遇 4. フンボルト 5. 言語学と科学 6. 青年文法学派 7. 言語学の多様化: ドイツ語圏 8. 言語学の多様化: 非ドイツ語圏 9. 新しい言語学の兆し 10. アメリカ構造主義 11. 日本と言語学 12. プラーク学派 13. 言語普遍の探究へ 14. 現代言語学 15. まとめ 											
系共通科目(言語学)(講義II)(2)へ続く											

系共通科目(言語学)(講義II)(2)

【履修要件】

前期の言語学講義IIを履修していることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

積極的な授業参加(60%)、定期試験(40%)

【教科書】

資料配布

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

研究史をみてゆくため、挙げられる用語や人名は多目である。プリントを参考に復習していただきたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは設けない。面談が必要な学生は授業後に予約をとること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 27246 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(基礎演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目		現象を通して学ぶ言語の広がりとお行き									
[授業の概要・目的]											
この授業は、受講者にさまざまな言語現象の不思議さを体感させ、それによって、言語の広がりとお行きを正しく理解させようとするものである。											
[到達目標]											
言語現象とはどのようなもので、どうすれば発見でき、説明できるのかを、受講者が自身で気づき自身の発見・説明能力を高めていけるようにしたい。											
[授業計画と内容]											
多くの受講者にとって最も身近な言語である現代日本語（共通語）の現象観察を通して言語学の基礎的な知識と技法を学ぶ。受講者は、提示された具体的なデータについて、現象を見てとり、その不思議さと理解をめぐるディスカッションに積極的に参加し、それをふまえてさらに自分で考えることが要求される。予定されている概要は以下のとおりである。なお今年度は定延利之がすべての授業を担当する。											
第1回：イントロダクション～言語現象とはどのようなものか？											
第2回：合成語のアクセント											
第3回：単純語のアクセント											
第4回：接ぎ木語											
第5回：動静と格形											
第6回：モノと述部形態											
第7回：知識と体験											
第8回：きもちの文法											
第9回：発話の権利 1											
第10回：発話の権利 2：											
第11回：非流暢性の規則性											
第12回：共在とインタラクション											
第13回：キャラ											
第14回：呼びかけ											
第15回：まとめ											
[履修要件]											
特になし											
----- 言語学(基礎演習)(2)へ続く -----											

言語学(基礎演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

議論への積極的な参加(40%)，レポート(30%)，発表(30%)の合計による。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

復習を怠らないようにしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

予約をとってもらえば質問などに応じます。
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学84

科目ナンバリング		U-LET29 27246 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(基礎演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目		サピアの言語学									
[授業の概要・目的]											
この授業では、サピアの言語学的な論文をいくつか選び、講読する。そのことで、言語現象の多様性を把握するとともに、言語とは何か、言語学が何を指すべきかを議論する。											
[到達目標]											
言語現象の多様性を把握するとともに、言語とは何か、言語学が何を指すべきかを考察する力をつける。											
[授業計画と内容]											
次のテーマ別にサピアの論文を読む。 第1回：はじめに 第2回：Communication 第3回：Sound Patterns in Language (1) 第4回：Sound Patterns in Language (2) 第5回：The Psychological Reality of Phonemes (1) 第6回：The Psychological Reality of Phonemes (2) 第7回：Language (1921) Chapter VII (1) 第8回：Language (1921) Chapter VII (2) 第9回：Language (1921) Chapter VII (3) 第10回：Language (1921) Chapter VIII (1) 第11回：Language (1921) Chapter VIII (2) 第12回：Language (1921) Chapter IX (1) 第13回：Language (1921) Chapter IX (2) 第14回：Language (1921) Chapter IX (3) 第15回：まとめ (ただし、受講者数や理解度に応じてスケジュールを変更することがある)											
この講義ではいくつかの論考を取り扱うが、同じ論考について他の回で異なる視点から取り組む場合が含まれる。そのため、回ごとの区切りが設けにくいところがあるが、上記の大テーマに沿って話が進むものと心得ていただきたい。											
[履修要件]											
特になし											
----- 言語学(基礎演習)(2)へ続く -----											

言語学(基礎演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的な参加(20%)，レポート(40%)，発表(40%)の合計による。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

復習を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学85

科目ナンバリング		U-LET49 29648 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語（初級A）(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 外国語学部 助教 杉山 豊			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語（初級）									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。											
【到達目標】											
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。											
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：文字(1)（第1課相当）</p> <p>第3回：文字(2)（第1課相当）</p> <p>第4回：発音(1)（第2課相当）</p> <p>第5回：発音(2)（第2課相当）</p> <p>第6回：単語の表記(1)（第3課相当）</p> <p>第7回：単語の表記(2)（第3課相当）</p> <p>第8回：単語の発音(1)（第4課相当）</p> <p>第9回：単語の発音(2)（第4課相当）</p> <p>第10回：現在終止形（上称体）（第5課相当）</p> <p>第11回：名詞と助詞（第6課相当）</p> <p>第12回：数詞と助数詞(1)（第7課相当）</p> <p>第13回：数詞と助数詞(2)（第7課相当）</p> <p>第14回：否定と肯定（第8課相当）</p> <p>第15回：期末試験・フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30点）と学期末試験（70点）。											
----- 朝鮮語（初級A）(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（初級A）(語学)(2)

[教科書]

松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

（その他（オフィスアワー等））

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学86

科目ナンバリング		U-LET49 29649 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語（初級B）(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 外国語学部 助教 杉山 豊			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語（初級）									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。											
【到達目標】											
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。											
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：略待上称体(1)（第9課相当）</p> <p>第3回：略待上称体(2)（第9課相当）</p> <p>第4回：変則用言(1)（第10課相当）</p> <p>第5回：変則用言(2)（第10課相当）</p> <p>第6回：過去終止形（第11課相当）</p> <p>第7回：未来終止形（第12課相当）</p> <p>第8回：敬語形（第13課相当）</p> <p>第9回：命令・勧誘・禁止（第14課相当）</p> <p>第10回：連用形（第15課相当）</p> <p>第11回：連体形（第16課相当）</p> <p>第12回：各種接続語尾（第17課相当）</p> <p>第13回：各種補助用言（第18課相当）</p> <p>第14回：各種補助用言(第18課相当)</p> <p>第15回：期末試験・フィードバック</p>											
【履修要件】											
前期よりの継続なので、前期に初級を履修しているか、またはそれと同等の学習歴のある者。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30点）と学期末試験（70点）。											
----- 朝鮮語（初級B）(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（初級B）(語学)(2)

[教科書]

松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

（その他（オフィスアワー等））

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29650 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語(中級A)(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 中村 麻結			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語(中級)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語文法における中級文法(初級に続く内容)を一通り解説・練習する。各課の内容は以下の文法事項のほか、簡単な会話を含む。文法説明は講義形式で行うが、会話と読解はペア練習または発表形式で練習する。											
【到達目標】											
中級朝鮮語文法を身につけ、会話において直接その知識を活用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 1. 希望表現、2. 過去形、3. l語幹用言について、4. 尊敬の語尾と過去形の融合形											
第2回 1. 感嘆・婉曲・余韻の語尾、2. 聞き手の意志を尋ねる終結語尾、3. 「～したあと」、4. 意思表示・約束の終結語尾											
第3回 1. 例えの表現、2. 丁寧に勧める終結語尾、3. 譲歩の表現、4. 可能と不可能											
第4回 1. 目的の表現、2. 感嘆の終結語尾、3. 仮定の接続語尾、4. 「～するまで」											
第5回 1. 推量表現(1)、2. 根拠の終結語尾、3. 過去形の縮約形、4. 丁寧に表す助詞											
第6回 1. 尊敬の語尾、2. 同意を求める終結語尾、3. 丁寧に疑問の終結語尾(動詞)、4. 先行動作や理由・根拠の接続語尾											
第7回 1. 連用形+補助用言、2. 前置き・逆接の接続語尾、3. 接続語尾-keiによる慣用表現、4. 「～てしまう」											
第8回 1. 依頼の表現、2. 経験の表現、3. 経過の表現、4. 「～について、に関して」											
第9回 1. 未来連体形による表現、2. 仮定条件の接続語尾、3. 目標の接続語尾、4. 常体とやわらかい敬体											
第10回 1. 不審を表す終結語尾、2. 名詞形語尾、3. 理由を表す分析的形式、4. 非関与を表す接続語尾											
第11回 1. 変則用言、2. 「～じゃないですか」3. 意図表現と意志表現、4. くだけた並列の助詞											
第12回 1. 準備を表す補助用言2. 変則活用1)h変則、2)t変則、3)le変則、4)lu変則、3. 比較対象の助詞、4. 接尾辞-talahta											
第13回 1. 付帯状況の接続語尾、2. 依頼や命令の根拠を表す接続語尾、3. 命令・勧誘の最敬体終止形語尾、4. e変則活用											
第14回 1. 意図の表現、2. 疑問形語尾を用いた推量表現、3. 程度の助詞、4. 対照させる接続語尾											
第15回 期末試験、フィードバック											
----- 朝鮮語(中級A)(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（中級A）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業での発表（20点）、小テスト（1回、20点）、期末試験（60点）

【教科書】

松尾勇・金善美・千田俊太郎 『佳子のソウル留学から... - 中級韓国語教材 - 』（同学社）ISBN: 978-4-8102-0272-4

【参考書等】

（参考書）

油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『小学館 韓日辞典』（小学館）ISBN:978-4095157214

（関連URL）

https://www.monokakido.jp/ja/old_product/foreign/korean/(小学館韓日辞典・日韓辞典のiPhone用アプリです。)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業は教科書に沿って行うので、授業前に次回の内容を予習して下さい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29651 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語(中級B)(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 中村 麻結			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語(中級)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語文法における中級文法(初級に続く内容)を一通り解説・練習する。各課の内容は以下の文法事項のほか、簡単な会話を含む。文法説明は講義形式で行うが、会話と読解はペア練習または発表形式で練習する。											
【到達目標】											
中級朝鮮語文法を身につけ、会話において直接その知識を活用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 1. 原因・目的の接続語尾、2. 逆説の助詞、3. 願望表現、4. 複数の接尾辞、5. 意外さ・感嘆を表す副詞											
第2回 1. 名詞「久し振り」、2. 並列の接続語尾、3. 引用の語尾、4. 逆接の接続語尾、5. 中断の接続語尾											
第3回 1. 程度・限界の接続語尾、2. 次善の助詞、3. 下称の平叙形・感嘆形、4. ため口、5. 可能性の表現											
第4回 1. 未来連体形 + 依存名詞kyem、2. 連用形 + 補助動詞kata、3. 接続語尾-(u)lci、4. 名詞形語尾-m/um、5. 助詞(u)losse											
第5回 1. 下称の疑問形・命令形・勧誘形・禁止形、2. 軽微な詠嘆の語尾、3. ...することはする、4. 推量・意志の表現(ため口)、5. 羅列の接続語尾-(u)lya											
第6回 1. 驚き・不審・不服の終結語尾、2. 方法の表現、3. 引用形語尾、4. 引用文を受ける述語、5. 動詞の現在連体形 + tailo											
第7回 1. 連用形 + 補助動詞ota、2. 推量・意志の表現(略体上称)、3. -i/ki/li/hi-による動詞の派生、4. 引用文の連体形、5. 思い込みの表現											
第8回 1. 接続語尾-aya/eya/yeya、2. 代名詞mueの感嘆詞的用法、3. ...することもある、4. 連体形 + chailo、5. ...してばかりいる											
第9回 1. 条件の接続語尾、2. 許可の表現、3. 理由の接続語尾(書き言葉)、4. 例示の接続語尾、5. 逆説の接続語尾(書き言葉)											
第10回 1. 人数の助詞、2. u変則活用、3. 終結語尾-nunkel、4. 補助動詞chekhata、5. 禁止の表現											
第11回 1. 接続語尾-tanuntei、2. 終結語尾-tanikka、3. 試行の補助動詞、4. 寸前の補助形容詞											
第12回 1. 未来連体形 + cikyeng、2. 伝聞感嘆形、3. ...しようと思っていたところだ、4. 終結語尾-ulkel											
第13回 1. 例示の助詞、2. 驚き・不審・不服の終結語尾 + yo、3. 接続語尾-tani/ntani/nuntani、4. 副詞「どれくらい」											
第14回 1. 形容詞連用形 + poita、2. 決定の表現、3. 後悔を表す表現、4. 伝聞表現											
第15回 期末試験、フィードバック											
----- 朝鮮語(中級B)(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（中級B）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業での発表（20点）、小テスト（1回、20点）、期末試験（60点）

【教科書】

松尾勇・金善美・千田俊太郎 『佳子のソウル留学から... - 中級韓国語教材 - 』（同学社）ISBN: 978-4-8102-0272-4

【参考書等】

（参考書）

油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『小学館 韓日辞典』（小学館）ISBN:978-4095157214

（関連URL）

https://www.monokakido.jp/ja/old_product/foreign/korean/(小学館韓日辞典・日韓辞典のiPhone用アプリです。)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業は教科書に沿って行うので、授業前に次回の内容を予習して下さい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学89

科目ナンバリング		U-LET30 27302 LJ45									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(社会学) (講義) Sociology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 紀行			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		社会学概論I									
[授業の概要・目的]											
R. コリンズ(『ランドル・コリンズが語る社会学の歴史』)の整理に従って社会学の主要な理論的伝統を4つに分け、それぞれについて基本的な考え方を紹介し、それらの成立過程、異同や相互関係について概説する。その上で現代の社会学理論の状況について解説する。											
[到達目標]											
学問としての社会学の性格について学び、社会学の基礎的な理論的立場を理解する。											
[授業計画と内容]											
基本的に以下の順で講義を進める。ただし講義の進み具合によって各テーマの回数は変動する可能性がある。											
第1回 社会学とは何か											
第2回 社会学の歴史											
第3#123165回 機能主義的伝統											
第6#123167回 コンフリクト理論的伝統											
第8#123169回 ミクロ相互作用論的伝統											
第10#1231611回 功利主義的伝統											
第12#1231614回 現代社会学の主要動向											
《期末試験》											
第15回 フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
定期試験による。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習は特に必要ないが、授業中に紹介する社会学者の著作を各自の関心に応じて読んでほしい。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学90

科目ナンバリング		U-LET30 27304 LJ45									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(社会学) (講義) Sociology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 太郎丸 博			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		社会学概論 II									
【授業の概要・目的】											
現代世界で生起している諸現象を特徴付けるいくつかの重要なキーワードをとりあげ、前期で習得した社会学的な視点(社会学的方法論)を活用してどのようにしてその現象を認識し、どのようにしてその現象の背後にある(見えない)構造的な仕組みを理解することができるのかを明らかにする。											
【到達目標】											
現代世界で起きているさまざまな現象を表層的にとらえるのではなく、その現象が根ざしている、あるいはその現象をつくりだしているより深層の構造を批判的にとらえる社会学的想像力を身につけることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 近代化論と現代社会 第2回 大衆消費社会論 第3回 後期近代とモダニティ論 第4回 年齢・時代・コーホートと社会変動論 第5回 階級闘争と社会革命 第6回 社会階層と排除/包摂 第7回 中間試験 第8回 労働と組織 第9回 ジェンダー 第10回 家族 第11回 ナショナリズムと国民国家 第12回 科学と知識の社会学 第13回 政治と福祉の社会学 第14回 社会学はどう役立つか 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点 20%、試験 80%											
-----系共通科目(社会学) (講義) (2)へ続く-----											

系共通科目(社会学) (講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中指示した基本文献を精読すること

(その他(オフィスアワー等))

* オフィスアワーの詳細についてはKULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学91

科目ナンバリング		U-LET30 37361 PJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(実習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 太郎丸 博			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		社会調査の実際 (社会調査士科目G)									
【授業の概要・目的】											
社会調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひとつおりに体験的に学習する。そのような体験を通して、講義で得た知識の身体化を目指す。そのためには、授業時間外の作業が多く必要となる。また、他の受講者との相談や共同作業も多くなる。											
【到達目標】											
調査の企画、実施、データの入力、分析、報告書の作成ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1オリエンテーション 2 調査の企画 3仮説構成 4 調査項目の設定 5質問文・調査票の作成 6 プリテストと調査票の修正 7 対象者・地域の選定 8サンプリング 9 調査の実施 (調査票の配布・回収、面接) 10 エディティング 11 集計、分析 12 データの視覚化 13 仮説検証 14 報告書の作成 15フィードバック <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1オリエンテーション 2 データの入力・読み込み 3 単純集計表、ヒストグラムの作成 4 変数の操作の基礎 5変数の操作の応用 6 クロス集計表、帯グラフの基礎 7 クロス集計表、帯グラフの応用 8 散布図、箱ヒゲ図の作成 9 データセットの分割・結合 10 独立性の検定 11平均値の差の検定 12 多重クロス表分析 											
----- 社会学(実習)(2)へ続く -----											

社会学(実習)(2)

13 回帰分析の基礎
14 回帰分析の応用
15 フィードバック

【履修要件】

社会調査士科目A～Eをあわせて受講することが望ましいが、強制ではない。

【成績評価の方法・観点】

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社) ISBN:978-4589032577

盛山 和夫 『社会調査法入門』(有斐閣) ISBN:978-4641183056

【授業外学修(予習・復習)等】

復習重視。宿題が頻繁に出る。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。